

生物学

講 師	峰 正 隆	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	生体の構造を知るために、細胞の構造、働き及び生命現象に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	進展がめざましい生命科学について、基礎的な知識を習得し、それを通して生物、ヒトを科学的に捉え、さらに生命について深く考えることができる態度を身につける。				
学 習 方 法	講義・プリント学習				
成績評価の方法	期末試験の結果を中心に、授業への参加状況を考慮して評点を算出し、評価する。 筆記試験80%、授業態度・出席状況20%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「生物学」 医歯薬出版				
履修上の注意	生き物に関する知識を多く習得することは、ヒトとして幅広い考え方ができるようになるばかりでなく、歯科衛生士として不可欠であるので積極的に授業に参加して欲しい。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	生命の単位 細胞	生命の基本単位である細胞について説明できる。
2	細胞内には細胞小器官がある	細胞の構造と働きについて説明できる。
3	細胞のさまざまな活動	細胞内の酵素の働きやATPについて説明できる。
4	細胞の一生	細胞分裂と細胞周期を説明できる。
5	生殖により子孫をつくる	有性生殖と無性生殖について説明できる。
6	遺伝とその法則 (I)	遺伝の法則性について説明できる。
7	遺伝とその法則 (II)	性決定と伴性遺伝について説明できる。
8	生命をつくるしくみ(DNA)	DNAの構造と機能について説明できる。
9	遺伝子とDNA	遺伝子を働かせる仕組み(タンパク質合成)について説明できる。
10	動物は感覚器でさまざまな刺激を受容する	感覚器について説明できる。
11	神経系による刺激の伝達	神経系による刺激の伝達について説明できる。
12	体液と内分泌腺	ホメオスタシスと体液について説明できる。
13	自律神経とホルモンの協調	自律神経とホルモンの協調について説明できる。
14	生体防御 (I)	生体防御の仕組みについて説明できる。
15	生体防御 (II)	アレルギーや免疫の応用について説明できる。

化 学

講 師	松 澤 哲 宏	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 2 単位 （30 時間）	実務経験	—
一般目標 (GIO)	生体の構造を知るために、細胞の構造、働き及び生命現象に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	化学は現代科学技術の基本となるもので、物質の本態とその変化を十分に理解し、それら物質や変化が歯科の臨床にどのように利用されているかを知ることが目的とする。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験、授業態度、出席状況等の総合評価(筆記試験80%、出席状況20%)				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「化学」 医歯薬出版 随時プリント配布				
履修上の注意	私語を慎み、真剣な態度で授業に臨んでほしい。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	化学の基礎概念	物質の分類および原子の構造について理解できるようになる。
2	物質の構造 I	分子量およびmolの計算ができるようになる。
3	物質の構造 II	気体の状態方程式の計算ができるようになる。
4	物質の状態 I	溶液の濃度に関する計算ができるようになる。
5	物質の状態 II	希釈水溶液の示す性質について理解できるようになる。
6	物質の状態 III	希釈液の作り方の計算ができるようになる。
7	化学計算問題の理解	mol、溶液の濃度および希釈液の作り方の計算の応用問題が解けるようになる。
8	物質の変化 I	pHの計算ができるようになる。
9	物質の変化 II	化学反応式について理解できるようになる。
10	熱力学	エネルギー保存の法則について理解できるようになる。
11	無機化学	化学結合について理解できるようになる。
12	有機化学 I	有機化合物の名前の付け方について理解できるようになる。
13	有機化学 II	有機化合物の名称から略式構造式を書けるようになる。
14	生体関連物質の化学	ヒトを形づくる元素について理解できるようになる。
15	高分子化学	天然および人工の高分子化合物について理解できるようになる。

心 理 学

講 師	大町あかね	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。				
授 業 概 要	心理学は“こころ”の科学である、と言われていました。 日常生活の事例をもとに、こころの問題を考えていきます。 心理学の意義や研究領域を紹介し、あなた自身や他者、それに人間関係に興味・関心を持てるようにします。 「心理学」が身近な学問であることを理解し、その知識を日常生活に活かしていけるようにします。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	出席、定期試験、小テスト、提出物を総合的に評価する。 筆記試験60%、小テスト20%、出席状況20%				
教 科 書	特に指定しない。				
履修上の注意	用意するもの、①A4版の黄色の紙ファイル、②B5版ノート(ルーズリーフ不可)、③クレヨン(12色以上)、B4の鉛筆、油性黒マジック、④は、心理療法の授業で使用				
参 考 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「心理学」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	心理学とはなにか。不登校について考える。	身近な問題をきっかけに、心理学について知る。
2	メンタル・ヘルスの基礎知識	ストレスについて理解し、対処法を身につける。
3	アンガー・マネジメント	怒りのコントロールについて理解し、実践できるようになる。
4	アサーション・トレーニング	よりストレスの少ない自己表現の方法を身につける。
5	パーソナリティ	パーソナリティの特徴を概説できる。
6	社会心理学(1)	同調行動について理解する。
7	社会心理学(2)	集団行動の心理を理解する。
8	生涯発達心理学 I	ライフサイクルの各段階における心の発達の特徴を概説できる。
9	生涯発達心理学 II	こころの発達に関わる要因を概説できる。
10	いろいろな心理療法	カウンセリング・マインドを身につける。
11	カウンセリングの実際	実習を通して、カウンセリング・マインドに基づくコミュニケーションを経験する。
12	女性のライフサイクルと心理学	女性のライフサイクルと心理的危機、その対処法を知る。
13	思考と言語	思考と言語について基礎を理解する。
14	認知・学習	認知、学習について基礎を理解する。
15	統括	これまでに学習した内容を振り返る。

倫理学

講 師	篠 原 駿一郎	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (15 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	倫理問題に配慮して医療、歯科医療、研究を行うために、生命と医療に関わる倫理の重要性を理解する。				
授 業 概 要	倫理学は、人間や社会組織の行為の善し悪しや正当性を評価する学問です。この授業では、特に医療倫理あるいは生命倫理と呼ばれる分野に焦点を絞って学びます。日常生活や医療の場で、命(いのち)をどのように扱うのが適切かを考えていきましょう。				
学 習 方 法	講義・映像資料の利用				
成績評価の方法	最後にテストを行います。受講態度も加味して評価します。(テスト80%、受講態度20%)				
教 科 書	使用しません。重要なことは板書します。				
履修上の注意	一人の人間として、また医療従事者として、さまざまな倫理問題を真剣に深く考えてもらいたいと思います。				
参 考 書	篠原駿一郎著「生命科学のユートピア～いのちの尊厳は守られるか」(2015年,NHK出版)				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	倫理、医療倫理、生命倫理	そもそも倫理とは何かを理解し、職業倫理としての医療倫理の基本的な概念を学ぶ。
2	生殖医療の倫理1	さまざまな生殖補助技術に関わる倫理を考える。
3	生殖医療の倫理2	出生前診断の発達に関わる倫理を考える。
4	病気治療の倫理1	臨床の場における医療者の倫理を考える。
5	病気治療の倫理2	先端医療をどう評価するかを考える。
6	終末期医療の倫理	終末期における医療者の倫理を考える。
7	医療と社会の関係	医療は社会の問題でもあることを理解する。
8	授業のまとめと期末テスト	授業の理解を確かめる。

行動科学

講 師	栗 山 雅 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得し、健康支援者としての必要なアプローチを実施するために行動科学を理解する。				
授 業 概 要	人を診る歯科医療では、患者さんとの良好な人間関係つまりコミュニケーションを築くことが大切である。デンタルNLPに基づいたコミュニケーションスキルを教授することにより、自分自身の素直な気持ちを知り、そして相手を大切に思う気持ちを持って行動できる医療人を育てる。				
学 習 方 法	講義・グループディスカッション				
成績評価の方法	講義最終日に行う筆記試験60%、毎回の講義時に行うワークでの発表内容30%、出席状況、授業態度10%				
教 科 書	土屋和子・著「プロフェッショナルコミュニケーション」医歯薬出版 2013 独自の配布資料				
履修上の注意	講義と演習形式の授業です。 将来、医療の専門職としての仕事をはじめると患者さんとのコミュニケーションが重要になります。 人とのコミュニケーション能力は、医療人にとって必須の能力です。 是非、この授業を通して皆さんのコミュニケーション能力を高めて下さい。				
参 考 書	宗像恒次監・著、栗山雅子・著 「歯科衛生士のためのヘルスカウンセリング」クインテッセンス出版 1998年				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	行動科学の概要 プロフェッショナルコミュニケーションスキルであるデンタルNLPの概要	・患者が必要な行動改善に自ら気づき、自分の意思によるセルフケア行動を育てるための行動科学に基づいた効果的なかわり方の重要性について説明できる。 ・NLPの前提とNLPによる変化のプロセスを説明できる。 ・自分自身と向き合うコミュニケーションスキルを獲得する。
2	欲求・感情の体系	・患者に対する共感的理解を行うため「気持ち」と言われるものを欲求・感情・価値などの意識現象として科学的にとらえていくことを理解できる。 ・感情のもつ意味と代表的な情動について説明できる。 ・自己の欲求が満たされない時、人はどのように反応するかを説明できる。 ・患者の意思決定の基礎を理解するとともに意思決定への援助のあり方について説明できる。
3	医療における人間関係の理解(患者理解)	・疾病を抱えた患者の心理的側面について理解できる。 ・患者は疾病をどのように受け止め行動するのかを理解できる。 ・医療面接について説明できる。 ・こころの健康に対する支援を説明できる。
4	言語コミュニケーションI	・ミスコミュニケーションが起こる原因を説明できる。 ・メタモデルを用いてコミュニケーションの質を高めることができる
5	言語コミュニケーションII	・LABプロフィールで言語パターンを理解できる。 (モチベーションに影響を与える共感言語)
6	非言語コミュニケーション	・観察力、キャリブレーションを説明できる。 ・優位な感覚VAK表象システムについて理解できる。 ・歯科臨床現場でのVAKシステムの活かし方について理解できる。 (パーソナリティの特徴を説明できる。)
7	信頼関係の構築	・ミラーリング、ペーシング、バックトラッキング、共感&傾聴、自己重要感を満たすコミュニケーションについて理解できる。
8	リフレーミング ニューロロジカルレベル	・ものごとのとらえ方を変えるリフレーミングについて説明できる。 ・ニューロロジカルレベルを応用し目標、目的に向かうための方法を見つけることができる。
9	保健健康モデル(集団対応)	・代表的な保健健康モデルであるProcede-Proceed-Modelについて理解できる。 ・PPMを用いて保健指導ができる。(人の行動が変わっていくにはどうしたらいいか、どういう時に人は変わるのかを理解できている。)
10	試験	・デンタルNLP技法を用いて課題についてグループワークを行い、成果を発表できる。

歯科英語

講 師	星 野 夢 子	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 2 単位 （30 時間）	実務経験	—
一般目標 (GIO)	歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。				
授 業 概 要	歯科医療について最低必要な用語を学び、外国の歯科関係文献で、最新情報を得る為にも、読解力を身につけさせる。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験85%、復習問題、提出物10%、授業態度5%の総合評価				
教 科 書	プリント配付				
履修上の注意	日常の語と異なる専門用語を早く覚え、語彙数を増やして欲しい。				
参 考 書	川口陽子 監修・著「丸ごと覚える 歯科臨床英会話フレーズ集」クインテッセンス出版 Thomas R. Ward 著 Part 2 「英語が話せる 歯科衛生士」 Part 4 「英語が話せる 歯科衛生士続編」 クインテッセンス出版 その他適宜紹介				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1 2	使用頻度の高い、基本的な歯科英語の修得	単語の意味を理解し、読み書きができる。 さらに多くの単語の読み、書く、暗記ができる。
3	読解力を高める為、実践に役立つ歯科臨床英会話フレーズの解釈 1)受付での会話(診療前)	各文の読み、書き、理解ができ、必要に応じた最低限の対応ができる。
4	2)位置、姿勢、動作の指示	各文の読み、書き、内容を理解し、その場に応じた指示ができる。
5	3)問診 (既往歴、一般症状、痛み、歯周疾患)	各文の読み、書き、内容を把握し、質問ができる。
6	4)ブラッシング指導	各文の読み、書き、内容を把握し、指導ができる。
7	5)う蝕予防処置	各文の読み、書き、内容を把握し、説明ができる。
8	6)エックス線撮影	各文の読み、書き、内容を理解できる。
9	7)局所麻酔	各文の読み、書き、内容を理解できる。
10	8)治療の一般的説明	各文の読み、書き、内容を理解し、質疑応答ができる。
11	9)治療後の注意事項	各文の読み、書き、内容を理解し、必要に応じた説明ができる。
12	10)薬の服用方法	各文の読み、書き、内容を理解し、個々に応じた基本的な数、単位を選別し、使用できる。
13	11)受付での会話(診療後)	各文の読み、書き、内容を理解し、日常会話での質疑応答ができる。
14 15	定期試験に対しての総復習及び練習問題	今まで学んだことを応用して、読む、書く、聞く、話すができる。

解剖学

講 師	小山田 常 一	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	人体の成り立ちを理解するために、身体の構造と機能、組織発生に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	ヒトの体の構造および機能について教授する。基本的に系統別に授業を行うが、適宜局所解剖の観点からの説明を行う。				
学 習 方 法	講義・DVD視聴				
成績評価の方法	定期試験、出席状況等により総合的に評価する。 筆記試験90%、出席状況10%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版				
履修上の注意	口腔解剖学、さらには他の多くの科目を学ぶ上で基礎となる科目である。 積極的な質問・議論を通して十分な理解が望まれる。				
参 考 書	分担解剖学(金原出版)、解剖学カラーアトラス(医学書院) 全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生士学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	解剖学総論	身体の部位を解剖学的な名称で表現できる。身体の方角用語を正確に用いることができる。
2	骨格系Ⅰ	骨の基本構造と連結様式を概説することができる。
3	骨格系Ⅱ	身体の各部位の骨の名称とその連結様式を説明することができる1。
4	骨格系Ⅲ	身体の各部位の骨の名称とその連結様式を説明することができる2。
5	筋系Ⅰ	筋の種類と特徴を説明することができる。
6	筋系Ⅱ	身体の各部位の筋の名称とその作用を説明することができる。
7	消化器系	消化器の基本構造と機能を概説することができる。
8	循環器系Ⅰ	心臓の構造と機能を概説することができる。
9	循環器系Ⅱ	身体の各部位の脈管の名称とその作用を説明することができる。
10	神経系Ⅰ	脳と脊髄の基本構造を概説することができる。
11	神経系Ⅱ	末梢神経の機能と分類を説明することができる1。
12	神経系Ⅲ	末梢神経の機能と分類を説明することができる2。
13	呼吸器系	呼吸器系の構造と機能を概説することができる。
14	内分泌系	内分泌系の基本構造を概説することができる。
15	生殖器系、まとめ	生殖器系を概説することができる。

組織・発生学

講 師	真 鍋 義 孝	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 1 単位 （20 時間）	実務経験	—
一般目標 (GIO)	人体の成り立ちを理解するために、細胞や組織の構造と生理的はたらき、人体の初期発生、顔面・口腔・口蓋等の発生、さらに顔面の奇形について基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	人体を構成する細胞や組織の「形態的特徴 とはたらき」について学ぶ。 1個の受精卵から組織、器官そして人体が形成されてくるまでの基本的過程(初期発生)について学ぶ。 また、歯科衛生士として診療に欠かせない顔面や口腔領域構造の発生(形成)を学び、主要な顎顔面領域の形成異常についても理解する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	必要に応じてレポートおよび小試験を課す。 定期試験(筆記試験)の成績を基本とし、必要に応じて、レポート、小試験の結果を加味して総合的に評価する。筆記試験90%、小テスト、出席状況10%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版 講義内容を要約したプリントを配布する。				
履修上の注意	人体の成り立ちを理解する上に必要な基礎科目です。解剖学、口腔解剖学、口腔組織学、さらには生理学など他の授業と関連させながら、人体の総合的な理解をめざすこと。 授業内容の予習・復習を必ず行うこと。				
参 考 書	牛木辰男 「入門組織学」 南江堂 (定価5,000円程度) (図が豊富でとてもわかりやすい。できれば参考書として利用するのが望ましい。)				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1 2	組織・発生学とは、細胞と組織(細胞、細胞小器官、細胞の一生)	1) 歯科衛生士を志す立場に立って本授業の意義を理解する。 2) 人体を構成する細胞と組織、器官、人体の意味と、これらの関係を概説することができる。 3) 細胞膜の「構造とはたらき」を説明できる。 4) 体細胞分裂の過程を説明することができる。
3 4	細胞の基本的生理機能、組織の特徴(1)	1) 細胞小器官を挙げ、それらの「構造と生理的機能」を概説することができる。 2) 細胞核の構造的特徴と役割をについて説明できる。 3) 4大組織に属する組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)の名称を挙げ、それらの役割を簡潔に説明できる。
5 6	組織の特徴(2)、発生(染色体～胚葉形成)	1) 4大組織の基本的構造と機能を具体的に説明できる。 2) 遺伝子、遺伝情報、染色体について、およびこれらとの関係について概説できる。 3) 配偶子形成と減数分裂、受精・受精卵の着床について概説し、さらに受精卵から胎児体の基礎となる3胚葉が形成される過程を概説できる。 4) 各胚葉に由来する組織や器官名を挙げることができる。
7 8	胎児の成長と発育、骨の発生、顔面と口腔の発生(鰓弓の形成)	1) 胎児の成長と発育過程を概説できる。 2) 骨の発生の基本を説明できる。 3) 胎児期における鰓弓の形成とその意味を説明できる。
9 10	顔面と口腔の発生 (顔面の形成～腺の形成)	1) 顔面、口腔、口蓋、舌の形成過程を説明できる。 2) 主要な顔面奇形を挙げて、それらの原因を発生学的に説明できる。 3) 頭部領域の腺の発生とそれらのはたらきについて概説できる。

生 理 学

講 師	中村 渉	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、特に体の仕組みに関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	人間が生きていくために細胞内または生体内で行われている生命現象を機能の面から学ぶ。人間の健康を維持するために必要な細胞ならびに器官の正常時の活動について、運動系、呼吸系、消化系、排泄系や内分泌系など器官の機能を学ぶ。スライド、映像、プリントで講義を構成する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験90%と出席状況10%による総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版				
履修上の注意	生理学は自分の身体の中で起こっていることを学ぶ身近な学問です。「生きる」ということがどんなにすばらしいメカニズムで成り立っているのかを理解して、生命現象に興味・関心を持って取り組んでください。				
参 考 書	随時に紹介あるいはプリントを配付する。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	生理学とは・細胞・組織・器官	1) 生物の内部環境の恒常性(ホメオスタシス)について説明できる。 2) 恒常性を保つ仕組みのホルモン系と自律神経系を概説できる。 3) バイタルサインについて説明できる。 4) 細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能を説明できる。
2	筋と運動	1) 骨格筋、心筋と平滑筋の構造と筋収縮機序を説明できる。 2) 運動単位の構成要素と運動単位の活動による力の調節機序を説明できる。 3) 伸張反射の役割と筋紡錘との関わりを説明できる。
3	消化・吸収	1) 胃における食物の受け入れと消化と吸収のメカニズムを説明できる。 2) 小腸刷子縁における終末消化と吸収の仕組みを説明できる。 3) 消化液とその分泌機構を説明できる。
4	循環器系・血液	1) 血液の組成と機能を説明できる。 2) 血液型と輸血を概説できる。 3) 止血、血液凝固、線溶現象および出血傾向を概説できる。 4) 心臓の基本的構造と機能を説明できる(心筋の特徴と刺激伝導系)。 5) 血圧と心電図を概説できる。
5	神経系	1) 神経細胞の興奮と伝導の仕組みを説明できる。 2) 中枢神経系の構造と各部位の働きを説明できる。 3) 脳と脊髄の基本構造と機能を概説できる。
6	神経系	1) 末梢神経系の分類と機能を概説できる。 2) 自律神経の特徴を説明できる。 3) 反射と随意運動を概説できる。
7	呼吸器系	1) 呼吸器の構造と機能を概説できる。 2) 肺気量と換気量について説明できる。 3) 肺胞と細胞におけるガス交換の仕組みを説明できる。 4) 呼吸の調節を概説できる。
8	感覚器系 泌尿器系	1) 感覚器を概説できる。 2) 刺激による感覚のメカニズムを概説できる。 3) 泌尿器を概説できる。 4) 正常な尿の一般的性状を説明できる。 5) 尿の生成と体液の調節の仕組みを概説できる。
9	体温	1) 体熱の産生(ふるえ熱産生と非ふるえ熱産生)を説明できる。 2) 体熱の放散(伝導、放射、対流、水分蒸散)を説明できる。 3) 体温調節中枢を概説できる。
10	内分泌器系・生殖器系	1) 内分泌系の基本構造とホルモンの働きを概説できる。 2) 血糖値を調節する仕組みを説明できる。 3) 性周期に関わるホルモンの名称と作用を説明できる。 4) 生殖器系を概説できる。

生 化 学

講 師	馬 場 友 巳	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (15 時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	人体の生命現象を化学反応の面から理解する。また、人体における代謝および各種分子の機能に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	生命の基本になっている細胞の構造や基本物質の代謝について学習する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	評価は口腔生化学と一緒に行う。授業中に、前回の授業の確認として豆テストを行う。これは自己確認のために行い、評価の対象とはしない。授業中に2回行う小テスト(5～10%)と試験期間中に行う定期試験(90～95%)を評価の対象とする。詳細は最初の時間に説明する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2「栄養と代謝」 医歯薬出版				
履修上の注意	生化学は、生物が生命を維持するためにどのようなことが体内で行われているかを学習する学問であり、生命を扱う医療には欠くことのできない学問である。さらに、歯科臨床の基礎であるばかりでなく、基礎科目の中でも最も基本的な学問なので、化学式にひるむことなく理解してほしい。				
参 考 書	特に設定はしないが、NHKなどで生命を扱う科学番組が放送されることがあるので、その時は意識してみてほしい。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	生体の化学	細胞の構造、水素結合、pH、緩衝液について学ぶ。
2	糖の構造	どのようなものを糖と呼ぶのかを学ぶ。
3	タンパク質の構造	タンパク質とはどのようなものか、それにはどのようなものが含まれるかを学ぶ。
4	脂質の構造	中性脂肪を中心として脂質の構造を学ぶ。
5	消化吸収	口に入れた食物がどこでどのように消化され体内に吸収されるかを学ぶ。
6	糖の代謝	解糖系、クエン酸回路、電子伝達系について学ぶ。
7	脂質の代謝	脂肪酸の分解過程である β 酸化と、クエン酸回路に入るしくみを学ぶ。
8	核酸	遺伝情報がどのように読まれ、いかにしてタンパク質が合成されるかを学ぶ。

口腔解剖学(含歯型彫刻)

講 師	小山田 常一 北 野 正 孝	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 3 単位 (4 5 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	ヒトの口腔周囲の構造(歯の形態を含む)について教授する。基本的に系統別に授業を行うが、適宜局所解剖の観点からの説明を行う。(1～15) 石膏棒を彫刻して歯の模型を作成し、歯の形態の立体的な理解を深める。(16～23)				
学 習 方 法	講義・DVD視聴・実習				
成績評価の方法	定期試験、出席状況等により総合的に評価する。(筆記試験90%、出席状況10%) 模型を解剖学的観点から採点する。(100%)				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版				
履修上の注意	口腔解剖学、さらには他の多くの科目を学ぶ上で基礎となる科目である。 積極的な質問・議論を通して十分な理解が望まれる。				
参 考 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版 歯の解剖学(金原出版)、分担解剖学(金原出版)、解剖学カラーアトラス(医学書院)				

授業計画

[1～15：小山田常一、16～23：北野正孝]

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	口腔を作る骨 I	顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる1。
2	口腔を作る骨 II	顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる2。
3	口腔領域に存在する筋肉 I	頭頸部の筋の構成と機能を概説できる1。
4	口腔領域に存在する筋肉 II	頭頸部の筋の構成と機能を概説できる2。
5	口腔領域に存在する脈管 I	頭頸部の脈管を概説できる1。
6	口腔領域に存在する脈管 II	頭頸部の脈管を概説できる2。
7	口腔領域を支配する神経 I	頭頸部の神経を概説できる1。
8	口腔領域を支配する神経 II	頭頸部の神経を概説できる2。
9	口腔領域の内臓 I	口腔領域の内臓を概説できる1。
10	口腔領域の内臓 II	口腔領域の内臓を概説できる2。
11	歯の形態ならびに構造 I	歯種別の形態と特徴を説明できる1。
12	歯の形態ならびに構造 II	歯種別の形態と特徴を説明できる2。
13	歯の形態ならびに構造 III	乳歯の形態と特徴を説明できる。
14	歯の形態ならびに構造 IV	歯列と咬合を概説できる。
15	まとめ	歯の異常形態を概説できる、他。
16 17	趣旨及び方法の説明、上顎中切歯	形態と機能を歯型彫刻をすることにより学習する。 歯牙を見て、即座にいずれかを判断できることを目標とする。
18 19	上顎犬歯、上顎第一小臼歯	
20 21	上顎第一小臼歯、上顎第一大臼歯	
22 23	上顎第一大臼歯、下顎第一大臼歯	

口腔組織学

講 師	森 石 武 史	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯と歯周組織の成り立ちを理解するために、歯と歯周組織の発生、および構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	歯と歯周組織の発生・構造・機能について学ぶ。 主に光学顕微鏡で見た歯の発生過程と歯牙の構造、およびそれを支える周囲の組織構造について実際の顕微鏡像を見せながら解説する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	国家試験問題形式の筆記試験(100%)で評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士の業務においても、歯と歯周組織の内部構造を知っておくことは重要です。 各回の内容の予習・復習を行い、理解を深めてください。				
参 考 書	口腔の発生と組織 改訂4版 田畑純(著)南山堂 *より深く学びたい人はぜひ読んで下さい。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	口腔組織学概論 ・エナメル質の構造と機能I	口腔組織学とは何かを説明できる。 エナメル質の基本構造を説明できる。
2	エナメル質の構造と機能II	エナメル質の組織学的構造と機能を説明できる。
3	象牙質・歯髄の構造と機能 I	象牙質・歯髄複合体の基本構造を説明できる。
4	象牙質・歯髄の構造と機能 II	象牙質・歯髄の組織学的構造と機能を説明できる。
5	セメント質・歯槽骨・歯根膜の構造と機能I	セメント質と歯槽骨の組織学的構造と機能を説明できる。
6	セメント質・歯槽骨・歯根膜の構造と機能 II	歯根膜の組織学的構造と機能を説明できる。
7	歯肉・口腔粘膜の構造と機能	歯肉と口腔粘膜の組織学的構造と機能を説明できる。
8	顔面と口腔の発生	顔面の発生および口腔の形成を説明できる。
9	歯と歯周組織の発生I	歯と歯周組織の初期発生を説明できる。
10	歯と歯周組織の発生 II	歯と歯周組織の後期発生を説明できる。

口腔生理学

講 師	中村 渉	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	口腔生理は全身の生理と共通の法則に従っていることを学ぶ。口腔の機能がいかに営まれているかを学ぶ。口腔機能として「食べる・飲む」、「感じる」、「話す」、「意思表示する」、「動かす」について学ぶ。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験90%と出席状況10%による総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版				
履修上の注意	口腔と顎顔面領域の保健と医療に従事する歯科衛生士にとって、口腔顎顔面領域の生理的機能を十分に理解し、人々の歯と口腔の健康づくりに役立ててください。				
参 考 書	随時に紹介あるいはプリントを配付する。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯と口腔の感覚	1) 歯と口腔粘膜の感覚を概説できる。 2) 歯に力を加えたときに生じる圧覚のメカニズムを説明できる。 3) 歯がしみるメカニズムにおける動水力学説の意味を説明できる。 4) 歯髄炎による痛みと象牙質知覚過敏症の痛みの違いを説明できる。
2	味覚	1) 味覚器の構造と味覚の生物学的役割を説明できる。 2) 舌の構造と機能を説明できる。 3) 各基本味の閾値と性質について説明できる。 4) 味が受容される仕組みについて説明できる。
3	嗅覚	1) 嗅覚の特性と役割を説明できる。 2) においが受容される仕組みについて説明できる。 3) 嗅覚障害について説明できる。
4	咬合と咀嚼・吸啜	1) 上顎を基準とした三次元的な下顎の位置である下顎位の下顎安静位、咬頭嵌合位、中心位を説明できる。 2) 下顎の運動を、顎関節の特徴、限界運動および咀嚼筋の働きと関連づけて説明できる。 3) 下顎の動きを制御する下顎張反射、歯根膜閉口筋反射、閉口反射や開口反射を説明できる。 4) 頭頸部の筋の構成と機能を概説できる。
5	咀嚼・吸啜	1) 咀嚼の定義や意義を説明できる。 2) 咀嚼能力を評価する方法を説明できる。 3) 乳児の探索反射、口唇反射、吸啜反射、嚥下反射を説明できる。
6	嚥下	1) 嚥下・嘔吐に関わる構造を説明できる。 2) 摂食・嚥下の流れを説明できる。 3) 嚥下の概要と食塊の動きを説明できる。
7	嚥下と嘔吐	1) 嚥下の神経機構を説明できる。 2) 嚥下の病態を説明できる。 3) 嘔吐の誘発とその機序を説明できる。
8	発声	1) 生体において声が生成される仕組みを説明できる。 2) 構音器官としての口腔を概説できる。 3) 言語音の形成される仕組みを説明できる。 4) 歯・口腔の病態と発音に及ぼす影響について説明できる。
9	唾液1	1) 唾液腺の位置と構造を説明できる。 2) 唾液腺の種類を説明できる。 3) 唾液の分泌機構を説明できる。
10	唾液2	1) 唾液の性状と成分および生理作用を説明できる。 2) 唾液と疾患との関連を説明できる。

口腔生化学

講 師	馬 場 友 巳	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 （15 時間）	実務経験	—
一般目標（GIO）	口腔領域の疾患を理解するために、口腔における物質の代謝や機能について理解する。				
授 業 概 要	口腔領域を構成する物質の性質や石灰化のメカニズムについて学習する。二大口腔疾患であるう蝕と歯周病の発症機構を学ぶ。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	生化学・口腔生化学をあわせて評価する。授業中に、前回の授業の確認として豆テストを行う。これは自己確認のために行い、評価の対象とはしない。授業中に2回行う小テスト(5～10%)と試験期間中に行う定期試験(90～95%)を評価の対象とする。詳細は最初の時間に説明する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2「栄養と代謝」 医歯薬出版				
履修上の注意	う蝕や歯周疾患の病因論については、詳しくは臨床科目で学習するが、そのための基礎知識を習得する。歯科医療従事者として必要な知識なので、十分に理解してほしい。				
参 考 書	「口腔生化学」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1	結合組織1	生体に多く含まれ、歯や骨の主要成分でもあるコラーゲンについて学ぶ。
2	結合組織2	エラスチンやプロテオグリカンなど結合組織に存在する物質について学ぶ。
3	歯の構成成分	歯を構成する無機物、歯に含まれるタンパク質にどのようなものがあるかを学ぶ。
4	石灰化	石灰化が起こるしくみや、血液中のカルシウムやリンの調節機構を学ぶ。
5	唾液	唾液に含まれるタンパク質、抗菌物質、pHに影響を与える因子などについて学ぶ。
6	歯の堆積物	ペリクル、プラーク、歯石の組成や形成のしくみ、菌体外多糖について学ぶ。
7	免疫	自然免疫や獲得免疫とは何かを知り、炎症反応、抗体について学ぶ。
8	リポ多糖	リポ多糖とは何か、そして、歯周病への関与を学ぶ。

病理学

講 師	藤 田 修 一	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	疾患の治療や予防のためには、疾患の原因、発生機序および病態変化の理解が必要である。これらの病理学的特徴を理解するために、全身に起こる疾病の概念、病因と病態に関する基本的病理学的知識を習得する。				
授 業 概 要	下記の授業計画にある基本的な病理学的項目について講義を進める。教科書Part I 病理学の範囲である。病理学総論としての授業で、全身に共通して発生する基礎的な病態を解説する。これらの変化が全身のいろいろな臓器において、どのように疾患を作っていくか説明する。取り上げる疾患は一般によくみられるものである。歯科・口腔領域以外の疾患の知識を持つことは、将来、医療従事者として臨床現場でも役立つと思われる。また、病理学では病変の肉眼像や組織像(顕微鏡像)が重要な情報をもたらすので、授業では液晶プロジェクターを併用し、視覚的にも理解を深めるようにしたい。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験 100%				
教 科 書	田中昭男 他編 新・歯科衛生士教育マニュアル「病理学」 クインテッセンス出版				
履修上の注意	病理学を理解するにあたっては、解剖学、組織学、生理学等の基本的な知識が必要ですので、予習・復習には、他の科目の教科書も参考にしてください。不明な点は授業中または、授業終了後に質問してください。				
参 考 書	竹内 宏 他編 「最新 病理学・口腔病理学」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	病理学概論、 病因論	① 病理学と病理診断を概説できる。 ② 病因を分類できる。 ③ 内因と外因について説明し、具体例を列举できる。 ④ 主因・副因を説明できる。
2	先天異常	① 遺伝子と染色体について概説できる。 ② 遺伝子異常による疾患と遺伝様式を説明できる。 ③ 染色体異常による疾患を説明できる。 ④ 奇形の分類と成因について概説できる。
3	循環障害 I	① 体液の循環について説明できる。 ② 高血圧症を説明できる。 ③ 一次性ショックと二次性ショックの違いを説明できる。 ④ 充血、うっ血、虚血の違いを説明できる。 ⑤ 出血の種類、原因、転帰を説明できる。
4	循環障害 II	① 血栓症・塞栓症の成立機序、転帰を説明できる。 ② 梗塞の種類、成因、転帰を概説できる。 ③ 側副循環と具体例を説明できる。 ④ 水腫(浮腫)の原因、症状、転帰を説明できる。
5	代謝障害 I	① 細胞・組織傷害(退行性病変)を概説できる。 ② 萎縮を説明し、具体例を列举できる。 ③ 変性を分類し、説明できる。 ④ 変性に関連した代謝異常を列举できる。 ⑤ 壊死と壊疽、壊死とアポトーシスの違いを説明できる。
6	代謝障害 II、 増殖と修復	① 肥大、増生、化生、再生を概説できる。 ② 肉芽組織とその構成成分を説明できる。 ③ 肉芽組織が関与する病変を列举できる。 ④ 創傷の治癒過程を説明できる。 ⑤ 異物の処理(器質化を含む)を説明できる。
7	炎症 I	① 炎症の定義を説明し、五大徴候を列举できる。 ② 炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 ③ 炎症のケミカルメディエータを説明できる。 ④ 炎症の一般的な経時的変化を説明できる。
8	炎症 II	① 炎症を分類できる。 ② 変質性炎、滲出性炎、増殖性炎を説明できる。 ③ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の違いを説明できる。 ④ 肉芽腫性炎の定義を述べ、代表的な肉芽腫性炎を列举できる。
9	免疫と 免疫異常	① 免疫の種類と免疫応答を説明できる。 ② アレルギー反応を説明し、アレルギー性疾患を分類できる。 ③ 自己免疫疾患を説明し、具体例を列举できる。 ④ 免疫不全症とその症状を説明できる。 ⑤ 移植免疫と拒絶反応を説明できる。
10	腫瘍	① 腫瘍の定義を説明できる。 ② 腫瘍の病因と発生を概説できる。 ③ 腫瘍の局所での発育形式と転移を概説できる。 ④ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる。 ⑤ 腫瘍の分類の概念を説明できる。

口腔病理学

講 師	藤 田 修 一	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	将来、歯科衛生士として臨床現場でみることになる口腔領域の疾病を学ぶ。様々な疾患の病理学的特徴を理解することは、治療や予防に必要である。「病理学」で学んだ基本的病理学的変化をもとにして深い知識を習得する。				
授 業 概 要	病理学で解説した基本的な疾患の知識をもとにして、口腔領域の様々な疾患を個別に講義する。講義内容は教科書Part II 口腔病理学の範囲である。ここでは歯科医院などの臨床現場で遭遇する様々な疾患を解説する。病変の原因や成り立ちを理解することは、臨床分野で履修するであろう予防や治療法の理解に必須である。口腔病変の肉眼像や組織像(顕微鏡像)を供覧しながら講義を進める。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験 100%				
教 科 書	田中昭男 他編 新・歯科衛生士教育マニュアル「病理学」 クインテッセンス出版				
履修上の注意	将来の医療業務と直接関係する疾患がテーマとなるので興味を持って授業に臨んでほしい。また、不明な点は授業中または授業終了後に質問してください。				
参 考 書	下野 正基 他編 「新口腔病理学」第3版 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)	
1	歯の発育異常	① 歯の発育異常の種類を列挙できる。 ② 歯の大きさ、形、数、構造、色、萌出時期、位置、咬合の異常について説明できる。	
2	歯の機械的損傷、 歯の化学的損傷、 歯の沈着物と着色	① 歯の機械的損傷と化学的損傷の違いを説明できる。 ② 咬耗、アブフラクション、摩耗について説明できる。 ③ 歯の破折、脱臼について説明できる。	④ 酸蝕症を説明できる。 ⑤ 歯垢(プラーク)について説明できる。 ⑥ 歯石について説明できる。
3	う蝕 I	① う蝕の発生機序について説明できる。 ② う蝕を分類できる。	③ エナメル質う蝕(初期う蝕と実質欠損う蝕)を説明できる。 ④ 象牙質う蝕を説明できる。
4	う蝕Ⅱ、 象牙質・セメント質 の増生、 歯髄の病変	① セメント質う蝕を説明できる。 ② 第二象牙質、第三象牙質、象牙質粒を説明できる。 ③ セメント質増生、セメント質粒を説明できる。	④ 歯髄の循環障害、代謝障害(退行性病変)を説明できる。 ⑤ 歯髄炎を分類できる。 ⑥ 歯髄炎の臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。
5	根尖部歯周組織 の病変	① 根尖部歯周組織の病変の原因を説明できる。 ② 根尖部歯周組織の病変の分類ができる。	③ 根尖部歯周組織病巣の隣接組織への波及を説明できる。 ④ 根尖性歯周炎の臨床的および病理組織学的所見を説明できる。
6	(辺縁部)歯周組 織の病変、 口腔の創傷治癒	① 歯周組織について説明できる。 ② 歯周病の分類ができる。 ③ 歯肉炎・歯周炎の原因を説明できる。 ④ 歯肉炎と歯周炎の違いを説明できる。	⑤ 歯肉炎・歯周炎の臨床的および病理組織学的所見を説明できる。 ⑥ 咬合性外傷について説明できる。 ⑦ 抜歯創の治癒過程を説明できる。 ⑧ ドライソケットを説明できる。
7	口腔粘膜の病変、 エプーリス	① 口腔粘膜の色素沈着を説明できる。 ② 白板症を説明できる。 ③ 扁平苔癬の臨床的・病理学的特徴を説明できる。 ④ 免疫異常による口腔粘膜の疾患を説明できる。	⑤ ウイルス感染、真菌感染、放線菌感染による口腔粘膜疾患を説明できる。 ⑥ エプーリスの定義を述べることができる。 ⑦ エプーリスを病理組織学的に分類できる。
8	口腔領域の奇形、 顎骨の病変	① 口唇裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂の発生機序と症状を説明できる。 ② 顎骨骨髓炎の原因を説明できる。	③ 急性骨髓炎、慢性骨髓炎の症状および病理学的特徴を説明できる。 ④ 歯性上顎洞炎について説明できる。
9	口腔領域の嚢胞、 歯源性腫瘍	① 嚢胞の定義を述べることができる。 ② 歯源性嚢胞を分類し、臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。 ③ 非歯源性嚢胞を分類し、臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。	④ 歯源性腫瘍を説明し、分類できる。 ⑤ エナメル上皮腫、歯牙腫の臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。
10	非歯源性腫瘍、 唾液腺の疾患	① 口腔領域の非歯源性腫瘍を概説できる。 ② 非歯源性良性腫瘍を列挙し、臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。 ③ 前癌病変と上皮異形成を説明できる。	④ 非歯源性悪性腫瘍を列挙し、臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。 ⑤ 唾液腺の疾患を概説できる。 ⑥ 唾石症、唾液腺炎、シェーグレン症候群、多形腺腫の臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。

薬理学

講 師	山 口 優	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (15 時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	薬理学は、生体に対して薬物を投与したときの生体側の反応(薬理作用)を知ることを出発点とします。また、薬物を安全にしかも有効に病気の治療に使用するための基本を学ぶことになります。そのために、治療に使われる範囲から、中毒する範囲までの広い範囲で薬物の反応を勉強します。次に、そのような薬理作用が現れるメカニズム(作用機序)を学びます。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験100%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」医歯薬出版				
履修上の注意	薬物についての知識を正しく知ることは、歯科臨床に限らず日常生活でも必要なことです。「薬とはなんだろう?」とまず関心を持って講義に臨んでほしい。				
参 考 書	加藤・篠田監修 現代歯科薬理学 第5版 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	薬理学とは、薬物治療の種類、薬物作用の様式、薬物作用の基本形式と分類、用量反応関係と薬物の安全性の比較	①薬物療法の概要(原因療法、対症療法、補充療法等)を説明できる。 ②薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ③用量反応関係の用語を説明できる。 ④治療係数を説明できる。
2	薬物の作用機序 (受容体、イオンチャネル等)	①受容体の概念を説明できる。 ②受容体と作用薬、拮抗薬の関係を概説できる。 ③受容体を介さない作用を概説できる。 ④イオンチャネルを説明できる。
3	薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)、 薬物の生体膜通過様式	①薬物の生体膜通過様式を説明できる。 ②代謝(酸化、還元、加水分解、抱合)と排泄の関連性を概説できる。 ③腎における薬物の排泄様式を説明できる。 ④血漿タンパク質と薬物の結合について説明できる。
4	薬物の適用方法の種類と特徴、生物学的 利用能	①薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 ②初回通過効果を説明できる。 ③生物学的利用能を説明できる。
5	薬効に影響を与える因子 (生体感受性、年齢、プラセボ効果等)、 薬物連用の影響 (蓄積、耐性、タキフィラキシー、薬物 依存等)	①薬効に影響を与える因子を列挙できる。 ②小児、高齢者への薬物投与の特徴を説明できる。 ③プラセボ効果を説明できる。 ④薬物を連用して起こる現象を説明できる。
6	薬物の併用(協力作用と拮抗作用)と薬物 相互作用	①協力作用(相加作用、相乗作用)を例を挙げて説明できる。 ②拮抗作用の種類を列挙して、説明できる。 ③薬物動態学的相互作用を概説できる。 ④酵素誘導、酵素阻害を説明できる。
7	薬物の副作用、有害作用の予知と回避 ライフステージと薬物。服薬指導	①薬物の一般的副作用を概説できる。 ②口腔内に発現する薬物の副作用を説明できる。 ③妊産婦、授乳婦への薬物投与の特徴を説明できる。 ④乳幼児、小児への薬物投与の特徴を説明できる。 ⑤高齢者への薬物投与の特徴を説明できる。 ⑥有病者への薬物投与の特徴を説明できる。 ⑦対象別の服薬指導について説明できる。
8	薬物の取り扱い(処方箋、剤形)、 薬物の保存管理(毒薬と劇薬、麻薬と向精 神薬、覚醒剤と医薬品) 薬物と法律	①処方箋の記載事項を説明できる。 ②薬物の剤形を説明できる。 ③医薬品の分類を説明できる。 ④毒薬、劇薬および麻薬などの表示と保管を説明できる。 ⑤薬機法(医薬品医療機器等法)を説明できる。 ⑥日本薬局方を説明できる。

歯科薬理学

講 師	山 口 優	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 1 単位 (15 時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	一年次の薬理学の延長線上にあり、各種疾患との関連性で講義します。保存領域や外科領域では多くの種類の薬物が複雑に使われます。特に歯科臨床でよく使われる薬物に関しては、歯科的術式と関連付けながら講義を進めたいと思っています。歯科以外の医療で使われる薬物に関しても、概略を説明します。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験100%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」第2版 医歯薬出版				
履修上の注意	広く医療全般の紹介も兼ねて講義するが、特に歯科臨床と関連性の深いものに関しては、日常的に臨床の場で、患者に適用したり、器具の消毒などに使用するものであり、しっかりと知識を身につけてほしい。				
参 考 書	必要があれば適宜紹介あるいはプリントにて配布する。 加藤・篠田監修 現代歯科薬理学 第5版 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	末梢神経系と薬(神経衝撃の伝導と伝達、神経伝達物質と受容体)、中枢神経系と薬(全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗パーキンソン病薬)	①末梢神経系の構造と機能を説明できる。 ②自律神経系の神経伝達物質と受容体の種類及び遮断薬を説明できる。 ③神経筋接合部の神経伝達物質と受容体及び遮断薬を説明できる。 ④主な全身麻酔薬の種類と作用様式を説明できる。 ⑤主な催眠薬・抗不安薬の種類と特徴を説明できる。 ⑥抗パーキンソン病薬について説明できる。
2	痛みと薬(痛みの受容と痛覚伝導路、麻薬性鎮痛薬と関連薬物、内因性疼痛物質、解熱鎮痛薬、疼痛性知覚麻痺薬)	①内因性疼痛物質について説明できる。 ②麻薬性鎮痛薬と関連薬物の薬理作用を説明できる。 ③オピオイド受容体を説明できる。 ④解熱鎮痛薬を説明できる。 ⑤疼痛性知覚麻痺作用を説明できる。 ⑥酸性非ステロイド性抗炎症薬の適用について説明できる。 ⑦局所麻酔薬の適用について説明できる。
3	炎症と薬(炎症の5大徴候、炎症のケミカルメディエーター、抗炎症薬)、アレルギー性の炎症	①炎症の5大徴候を説明できる。 ②主な炎症のケミカルメディエーターの生合成について説明できる。 ③ステロイド性抗炎症薬の作用機序と副作用を説明できる。 ④主な酸性非ステロイド性抗炎症薬の作用機序と副作用を説明できる。 ⑤アレルギー性炎症と治療薬を説明できる。
4	局所麻酔薬(痛覚伝導の遮断、作用部位のpHの影響、血管収縮薬の併用、局所麻酔薬の種類)	①局所麻酔薬の作用機序を説明できる。 ②血管収縮薬を添加する目的を説明できる。 ③麻酔薬の効果に影響を与える因子について説明できる。 ④局所麻酔薬の種類と代表する薬物を説明できる。 ⑤局所麻酔薬の投与方法を説明できる。 ⑥局所麻酔薬の副作用を説明できる。
5	循環・呼吸器系と薬	①循環器系に作用する主な薬物の薬理作用と作用機序及び副作用を説明できる。 ②呼吸器系に作用する主な薬物の薬理作用と作用機序及び副作用を説明できる。
6	血液と薬(止血機構、局所性止血薬、全身性止血薬、抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬、抗貧血薬)	①止血機構を概説できる。 ②局所性止血薬を説明できる。 ③全身性止血薬を説明できる。 ④主な抗凝固薬(ヘパリン、ワルファリン)の作用機序を説明できる。 ⑤抗血小板薬の作用機序を説明できる。 ⑥血栓溶解薬の作用機序を説明できる。
7	感染症と薬(化学療法と抗菌薬、抗菌スペクトル、選択毒性、殺菌性抗菌薬と静菌性抗菌薬、有効血中濃度、耐性、消毒薬)	①抗菌薬の選択毒性について概説できる。 ②抗菌スペクトルについて説明できる。 ③有効血中濃度について説明できる。 ④耐性菌と交叉耐性について説明できる。 ⑤殺菌性抗菌薬と静菌性抗菌薬を分類できる。 ⑥主な抗菌薬を作用機序により分類し、それぞれの特徴を説明できる。 ⑦主な消毒薬の分類と薬理作用の特徴を説明できる。
8	歯内治療と薬、歯周治療と薬、口腔粘膜疾患と薬、ウ蝕予防と薬	①う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。 ②歯内療法に用いる薬の薬理作用を説明できる。 ③歯周治療に用いる薬の薬理作用を説明できる。 ④洗口薬を説明できる。 ⑤口腔粘膜疾患に用いる薬を説明できる。

微生物学

講 師	伊 藤 李 香	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 （15 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	微生物についての全般的な生物学的理解を深める。ヒトに疾患を引き起こす微生物についてその病原性にかかわる因子や感染成立の要件などを考察する。病原微生物を排除する生体側の機構(生体防御機構)について理解する。				
学 習 方 法	講義・DVD視聴				
成績評価の方法	定期試験80%、小テスト20%の総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科疾患を理解する上で大切な科目です。授業内容を理解するだけでなく臨床に際して治療の意義を考える手引きにしてほしい。口腔微生物学と総合的に講義を進めるので、便宜上予定の通りではないことがあるので注意すること。				
参 考 書	吉田眞一、柳雄介 編 「戸田新細菌学」 南山堂 その他、適宜紹介する。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	感染の成り立ちと発病、細菌の一般性状と病原性	感染と発症を説明できる。
2	病原性細菌	微生物の感染機構と病原性を概説できる。
3	ウイルス、真菌、原虫	細菌以外の微生物の形態学的特徴と基本的性状を概説できる。
4	宿主防御機構	自然免疫と獲得免疫を説明できる。
5	免疫機構(液性免疫、細胞性免疫)	液性免疫と細胞性免疫を説明できる。
6	アレルギー	アレルギーを概説できる。
7	化学療法と化学療法薬	化学療法の目的と原理を説明できる。
8	院内感染対策と滅菌・消毒	院内感染の原因と予防法について、滅菌・消毒法について概説できる。

口腔微生物学

講 師	富 永 孝 志	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (15 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	歯科領域の二大疾患といわれるう蝕と歯周病の発症に関連深い口腔微生物について学習する。また、これらを踏まえて歯科治療と消毒法、滅菌法の意義を理解する。				
学 習 方 法	パワーポイントを用いた講義				
成績評価の方法	定期試験(80%)および小テスト(20%)を総合的に評価する。詳細は初回講義時に説明する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科疾患を理解する上で大切な科目です。授業内容を理解するだけでなく臨床に際して治療の意義を考える手引きにしてほしい。微生物学と総合的に講義を進めるので、便宜上予定の通りではないことがあるので注意すること。				
参 考 書	吉田真一、柳雄介 編「戸田新細菌学」 南山堂 その他、適宜紹介する。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	口腔細菌叢	口腔常在微生物について概説できる。
2	プラーク、バイオフィルム	歯垢の形成機構、バイオフィルム感染症について概説できる。
3	う蝕	う蝕原因菌を概説できる。
4	歯内感染症	歯牙に関わる感染症について概説できる。
5	歯周病	歯周病原菌を概説できる。
6	その他の口腔感染症	真菌やウイルスによる口腔感染症について概説できる。
7	微生物の培養・顕微鏡観察法、小テスト	微生物の培養法や顕微鏡観察法について概説できる。 歯科衛生士国家試験に類似した問題を解くことができる。

口腔衛生学

講 師	伊藤かがり 坂本慶一郎 橘 一 史	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	歯科疾患の予防の基礎としての口腔衛生学を十分理解する。				
学 習 方 法	講義・DVD視聴				
成績評価の方法	定期試験100%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みI「保健生態学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士の業務において、その基礎となる科目です。理論と知識を確実に習得することが望まれます。				
参 考 書	松田裕子(編)「改訂 歯ブラシ事典」 学建書院 2012年 日本口腔衛生学会(編)「口腔保健のためのフッ化物応用ガイドブック」口腔保健協会 1994年 鴨井久一編著「新・歯周病をなおそう」 砂書房 その他				

授業計画

[1～5：坂本慶一郎、6～10：橘 一史、11～15：伊藤かがり]

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯、口腔の健康と予防	歯・口腔の健康の定義を説明し、歯・口腔の健康保持増進する手段について概説できる。
2	歯、口腔の健康	歯と歯周組織および口腔を構成する組織の構造と働きを説明できる。 唾液腺の種類および唾液の働きについて説明できる。 歯・口腔の形成・発育・発達・形成異常および機能について説明でき、口腔と全身の健康との関係について説明できる。
3	歯、口腔の付着物・沈着物	歯・口腔の付着物・沈着物を説明できる。
4	口腔清掃総論	口腔清掃の意義を説明し、清掃法の種類を列举できる。
5	口腔清掃各論	口腔清掃用具の種類と特徴を説明し、不適切な清掃による為害作用と、その予防法を列举できる。
6	歯磨剤と洗口剤	種類と組成および、その配合目的を説明できる。
7	歯科疾患の疫学	歯科疾患の疫学的特性を概説できる。
8	う蝕の予防Ⅰ	う蝕の発病メカニズムと発病要因を説明できる。 う蝕活動性試験の意義を説明できる。
9	う蝕の予防Ⅱ	リスクに応じたう蝕予防方法を列举できる。 う蝕発病の第一次、第二次および第三次予防を説明できる。
10	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物の人間生態系における意義と生体内代謝を説明できる。 フッ化物の毒性を認識し正しい対処法を説明できる。 フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明し、予防法を列举できる。 ライフステージに応じたフッ化物の応用方法を説明できる。
11	歯周疾患の基礎	歯周疾患の種類と発病のメカニズム、および炎症の広がりと症状を説明できる。
12	歯周疾患の予防	歯周疾患のリスクファクターを列举し、全身に与える影響、および予防法を説明できる。
13	口内炎・口腔癌・不正咬合・顎関節症・	口内炎・口腔癌・不正咬合・顎関節症・歯の形成不全・口臭症・口腔乾燥症の分類、実態、要因および予防について説明できる。
14	歯の形成不全・口臭症・口腔乾燥症の予防	
15	ライフステージごとの口腔保健管理	ライフステージごとの口腔保健管理について説明できる。

公衆歯科衛生(含歯科衛生統計)

講 師	田 浦 勝 彦	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 3 単位 (4 5 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度を養うために、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	公衆歯科衛生・統計情報の概要を学習することにより、公衆歯科衛生活動の基礎的な知識について理解する。特に歯科衛生士に期待されている地域における予防活動について理解を深める。				
学 習 方 法	講義と演習				
成績評価の方法	定期試験(100%)による総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監):最新歯科衛生士教本, 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」 医歯薬出版 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3「保健情報統計学」 医歯薬出版 NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会(編):日本におけるフッ化物製剤(第10版) 口腔保健協会				
履修上の注意	近年、歯科衛生士の業務は歯科診療所のみならず地域社会での貢献が求められている。地域住民の歯科保健の確立を支援するために本科目の履修に励んでほしい。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	公衆歯科衛生	1) 公衆歯科衛生と保健情報統計に関する概要を理解できる。 2) 質問紙による現状の知識や口腔状況を把握する。
2 3	保健情報－総論	1) データと情報の違いを説明できる。 2) 情報の性質を理解できる。 3) 母集団と標本を説明できる。 4) 標本抽出法を説明できる。 5) EBM(evidence-based medicine)を理解できる。
4 5	疫学	1) 疫学の目的を理解できる。 2) 因果関係を説明できる。 3) 交絡因子が結果に大きな影響を与えることを知る。 4) 疫学の調査方法を分類し、説明できる。 5) 疫学の研究方法を分類し、説明できる。 6) スクリーニング検査の信頼性の指標を説明できる。
6 7	国家統計調査・情報の保護と倫理	1) 個人情報の扱い(個人情報保護)を説明できる。 2) インターネットと情報モラルを概説できる。 3) 国家保健統計(歯科疾患実態調査等)を説明できる。
	統計分析の方法	1) データのもつ特徴を説明できる。 2) 数値に応じた代表値や散布度を選択できる。 3) 図表の種類と特徴を列挙できる。 4) 検定の流れを説明できる。 5) 標本平均値の差の検定を説明できる。 6) カイ二乗検定を説明できる。
8 9	歯科疾患の疫学	1) う蝕の疫学的特性を概説できる。 2) 歯周疾患の疫学的特性を概説できる。 3) その他の歯科疾患の疫学的特性を概説できる。 4) 指標と指数を説明できる。
10 11	歯科疾患の指数	1) う蝕の指数を説明できる。 2) 自らの歯の状況を把握できる。
12 13	歯科疾患の指数	1) 歯周疾患の指数を説明できる。 2) 歯周疾患の危険因子について説明できる。
14 15	歯科疾患の指数	1) 口腔清掃状態の指数を説明できる。 2) 不正咬合と歯列不正の指数を説明できる。 3) 歯のフッ素症指数を説明できる。
16 17	母子歯科保健	1) 母子健康手帳の口腔に關した質問項目を列挙できる。 2) 妊産婦への歯科保健指導の要点を説明できる。 3) 妊産婦期と乳幼児期の口腔保健管理を説明できる。 4) 1歳6か月児・3歳児歯科健康診査の結果からう蝕罹患型を分類できる。 5) う蝕罹患型に応じた歯科保健指導の要点を列挙できる。
18 19	学校歯科保健	1) 学校において被患率の高い疾病異常を列挙できる。 2) 学校保健の保健教育と保健管理を概説できる。 3) 学校歯科健康診断後のCOとGOの事後措置を説明できる。 4) 学校歯科健康診断の記号を列挙し、基準を説明できる。 5) 学校保健活動における歯科衛生士の役割を説明できる。
20 21	産業歯科保健	1) 事業者は、安全衛生管理体制の整備をはかることが、労働安全衛生法によって義務付けられていることを知る。 2) 職域での歯科保健を説明できる。 3) 口腔領域に関連のある職業性疾患と、それに対する特殊健康診断を説明できる。
	成人・老人(高齢者)歯科保健 災害時歯科保健	1) 生活習慣病のリスクファクターを列挙できる。 2) 成人期の口腔保健管理について説明できる。 3) 高齢者の保健対策を説明できる。 4) 要介護高齢者に対する歯科保健医療を説明できる。 5) 大規模災害時の保健医療対策を概説できる。 6) 被災地での歯科保健活動を概説できる。
22 23	精神・国際 歯科保健	1) 健康に関わる精神保健の意義を理解できる。 2) 精神障害者の歯科保健の問題を理解できる。 3) 開発途上国に対するWHOやJICAの活動を概説できる。 4) 世界の歯科疾患の状況や、口腔保健従事者を理解できる。 5) 開発途上国の口腔保健戦略について理解できる。
	地域歯科保健 －まとめ	1) 地域歯科保健の基本的な進め方を理解できる。 2) 地域歯科保健に関連する健康づくり対策や保健福祉関連施策の現状について理解できる。

衛生学

講 師	横 尾 美智代	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 1 単位 （15 時間）	実務経験	—
一般目標（GIO）	健康を左右する環境衛生（衛生学）の重要性を理解する。個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度や能力を養うための手法を習得する。感染症など集団防御対策とそれに関わる人々と社会の仕組みを理解する。				
授 業 概 要	(1) 健康の概念、予防の重要性を説明できる。 (2) 人口問題、自然環境、地球環境、について、それぞれの特徴を説明できる。 (3) 感染症（食中毒を含む）等、環境と集団の健康の問題を説明できる。				
学 習 方 法	教科書、配布プリントによる講義が中心である。必要に応じて課題解決のためのグループディスカッションを行う。毎時の学習内容の定着を評価するために、クラスメートとディスカッションをしながら「振り返りプリント」を完成させる。				
成績評価の方法	定期試験の結果を中心に、毎回の授業の参加状況を考慮して評価する。 定期試験90%、振り返りプリント10%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会（監） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み①「保健生態学」 医歯薬出版				
履修上の注意	近年、歯科衛生士の活躍の場は診療所や病院だけでなく、地域社会や国際社会においても広く期待されている。多方面で活躍できる歯科衛生士をめざして、本科目を通して個人および集団の健康を守るために必要な概念、知識、理解力を身につけてほしい。				
参 考 書	『公衆衛生がみえる2022-2023』(株)メディックメディア				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1	衛生学、公衆衛生学とは何か 健康の概念 予防医学の概念	健康の定義と国民の権利を理解できる。予防の概念を説明できる。健康づくりの理念を説明できる。
2	疫学の定義、概要、方法	疫学の考え方を理解できる。倫理的配慮の大切さを理解できる。疾病、異常の発生要因を列挙できる。疫学研究の方法を理解し、説明できる。
3	人口の動向、人口動態統計、生命表(1)	我が国と世界における人口の現状と推移を概説できる。我が国の人口統計を説明できる。
4	人口の動向、人口動態統計、生命表(2)	疾病統計、人口統計を用いてこれからの日本の人口の推移と健康上の問題について説明できる。生命表と平均寿命について説明できる。
5	環境と健康:環境の概念、空気、水と健康	人間と環境、健康の関係を説明できる。空気の成分、上水、下水の浄化法など身近な環境を守る仕組みを列挙できる。
6	環境と健康:放射線、住居、地球環境	放射線の種類や特徴を列挙できる。居住環境問題について列挙できる。地球環境問題と人体への影響、対応策について説明できる。
7	環境と健康:公害と健康影響、廃棄物処理	我が国の公害病の種類、それによって引き起こされた健康被害を列挙、説明できる。廃棄物の種類と責任の所在、処理方法を列挙できる。
8	感染症	感染症の成立の三要素、防御方法を説明できる。我が国で特に問題となっている感染症を概説できる。予防の考え方、対策について説明できる。

地域保健学・公衆衛生学

講 師	横 尾 美智代	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (15 時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	地域で暮らす人々の健康的な生活とは何かが大切かを理解し集団防御を考える力を養うための基本的知識を習得する。ライフステージごとの集団の特徴と健康問題を理解する。				
授 業 概 要	(1) 地域で暮らす人々の健康を守ることに重要性を説明できる。 (2) ライフステージに応じた健康上の問題とその支援について説明できる。 (3) 国際社会での健康を守る仕組みや活動について理解し、説明できる。				
学 習 方 法	教科書、配布プリントによる講義が中心である。必要に応じて課題解決のためのグループディスカッションを行う。毎時の学習内容の定着を評価するために、クラスメートとディスカッションをしながら「振り返りプリント」を完成させる。				
成績評価の方法	定期試験の結果を中心に、毎回の授業の参加状況を考慮して評価する。 定期試験90%、振り返りプリント10%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みI「保健生態学」 医歯薬出版				
履修上の注意	近年、歯科衛生士の活躍の場は診療所や病院だけでなく、地域社会や国際社会においても広く期待されている。多方面で活躍できる歯科衛生士をめざして、本科目を通して個人および集団の健康を守るために必要な概念、知識、理解力を身につけてほしい。				
参 考 書	『公衆衛生がみえる2022-2023』(株)メディックメディア				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	導入: 公衆衛生学の概念	公衆衛生学の歴史を理解できる。地域住民を対象とした健康づくりの理念を説明できる。
2	地域保健と公衆衛生: 地域保健の概念、組織、地域保健活動の進め方(1)	地域保健の概念を概説できる。健康増進法、健康日本21(第二次)について説明できる。地域活動、他職種との連携の大切さについて説明できる。
3	地域保健と公衆衛生: 地域保健の概念、組織、地域保健活動の進め方(2)	地域保健の概念を概説できる。地域保健活動の展開手法、他職種との連携の大切さについて説明できる。
4	地域保健と公衆衛生: 母子保健の概要	我が国の母子保健の概略を説明できる。母子健康手帳、健診等、我が国の母子保健サービスについて説明できる。
5	地域保健と公衆衛生: 学校保健の概要	学校保健で大切なことを説明できる。学校保健から明らかにできることや現在の問題点を列挙できる。特に学校での健診について説明できる。
6	地域保健と公衆衛生: 成人・老人保健の概要	生活習慣病の問題点および対策について説明できる。高齢者を取り巻く地域保健対策、介護を必要とする高齢者に対する地域の取り組みを概説できる。
7	地域保健と公衆衛生: 精神保健、災害時の保険医療活動	精神保健の重要性、我が国の状況を概説できる。被災地での公衆衛生の大切さ、歯科保健活動について説明できる。
8	地域保健と公衆衛生: 国際保健	国や地域により健康水準、口腔保健の状況が異なることを概説できる。WHOの活動、JICAによる二国間支援など途上国に対する活動を説明できる。

衛生行政・社会福祉

講 師	藤 田 純 次	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を修得する。				
授 業 概 要	歯科に関連した衛生行政・社会福祉の基礎について教授する。これにより、歯科保健・医療・福祉の現場で、歯科衛生士が担う役割を理解させる。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	期末試験を中心に、授業への参加度を考慮して評点を算出し、評価する。 筆記試験80%、小テスト、出席状況20%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 「保健・医療・福祉の制度」医歯薬出版				
履修上の注意	教科の性質上、授業の内容やそこで使用される言葉がどうしても難解となり、受ける側からすると親しみにくい授業だと思われます。しかし、歯科衛生士の社会進出が今後更に進むことを考えると、この教科は避けては通れない領域だと思われます。将来必要性を感じ、自分で勉強する場合にも取り組み難い領域なので、重要な箇所は授業中に覚えてしまう様、集中して講義に臨んでほしいと思います。				
参 考 書	厚生労働省健康政策局歯科衛生課監修 「歯科保健指導関係資料」 財団法人口腔保健協会 その他厚生労働省関係通知等				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯科衛生士と法律	歯科衛生士業務とその法的根拠及び法に規定されている義務・責務について概説できる。
2	歯科医師法、歯科技工士法	歯科医師法・歯科技工士法に規定されている義務・責務について概説できる。
3	歯科口腔保健の推進に関する法律、医療法	歯科口腔保健法の基本理念を理解し、国・地方自治体、歯科医師等の責務を概説できる。また、医療法に規定する遵守事項を概説できる。
4	医療関係職種	歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を理解するとともに、関係医療職種の業務の概略が概説できる。
5	その他の関係法規①薬事衛生法規	薬事に関連する法規の定義等を理解し、各法の概略が概説できる。
6	②保健衛生法規	地域保健に関連する法規の概略が概説できる。
7	③予防衛生法規	食品衛生法や感染症法の目的や定義を理解し、概説ができる。
8	社会保障、社会保険	憲法25条に示す社会保障の種類を理解するとともに、社会保険制度の種類や特徴等が概説できる。
9	医療保険	医療保険の種類とその法律について概説できる。
10	介護保険	介護保険制度のしくみについて概説できる。
11	年金保険、雇用保険と労働者災害補償保険	年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険について概説できる。
12	社会福祉の理念と社会福祉の実施体制、生活困窮施策と生活保護法	社会福祉の理念と社会福祉の実施体制について概説できる。 生活困窮施策、生活保護法(理念、目的、内容、現状)を概説できる。
13	「子ども家庭福祉と法律」 児童福祉法・児童虐待防止法・DV防止法・母子父子寡婦福祉法	児童福祉法、母子父子寡婦福祉法(成立の背景、内容)、児童虐待防止法(仕組みと現状)、DV防止法(仕組みと現状)を概説できる。
14	「障害者の福祉制度と法律」 ①障害者自立支援制度(障害者総合支援法) ②身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法	① 障害者自立支援制度の仕組みとサービスの内容を概説できる。 ② 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の成立の背景・概要・現状を概説できる。
15	老人福祉法と高齢者等の権利擁護	老人福祉法の概要と高齢者等に対する権利擁護の制度を概説できる。

歯科衛生士概論(含医療倫理)

講 師	井 手 祥 二 森 結 花	実施時期 単 位 数	第 1 学年前・後期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。				
授 業 概 要	健康づくりをサポートする歯科衛生業務を有効に展開するために必要な態度・取り組みと専門知識の技能の全体像を学ぶ。 医療従事者として医療倫理、生命倫理、またインフォームドコンセントやQOLについて理解する。				
学 習 方 法	講義・DVD視聴・グループディスカッション				
成績評価の方法	定期試験の結果を中心とし、小テストや授業への参加状況等を考慮し、総合的に評価する。 (小テスト30% 定期試験70%)				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会 (監) 歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」 医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会 (監) 歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士教育の入門科目である。適宜グループワークを行い、専門職の自覚をもって医療従事者としてどうあるべきかを考えてもらう。自主的な学習態度・学習過程を重視する。				
参 考 書	授業中に適宜指示する。				

授業計画 [1～9：森 結花、 10～15：井手祥二]

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯科衛生学とは	①歯科衛生学の定義を述べることができる。 ②歯科衛生士と健康のかかわりを説明できる
2	歯科衛生士の歴史・現況	①歯科の歴史について概要を説明できる。 ②歯科衛生士の誕生について概要を説明できる。
3	歯科衛生業務	①歯科衛生業務について説明できる。
4	歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーション	①歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーション力の必要性を説明できる。 ②歯科診療室での接遇・応対について考察する。
5	歯科衛生過程	①歯科衛生過程の考え方を説明できる。 ②歯科衛生過程のプロセス、構成要素を説明できる。
6	歯科衛生業務の進め方	①歯科衛生業務を実践するための判断力と技術の必要性について説明できる。
7	歯科衛生士法	①歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務について説明できる。 ②歯科衛生士の法的義務について説明できる。
8	医療安全管理と秘密保持義務	①医療安全管理の必要性について説明できる。 ②秘密保持義務の法的責任について説明できる。
9	チーム医療・多職種との連携	①チーム医療を概説できる。 ②多職種との連携の意義を説明できる。
10	医療従事者としての心構え	人命の尊重と患者への献身という基本的義務について説明できる。
11	医療倫理に関する規範、演習	医療倫理の歴史経過と規範を概説できる。グループワークを取り入れて、能動的な言動ができる。
12	バイオエシックス(生命倫理)について	生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
13	インフォームドコンセント、演習	インフォームドコンセントにおける患者と保健医療者双方の権利と義務を説明できる。グループワークを取り入れて、能動的な言動ができる。
14	研究と医療倫理	臨床、研究、情報に関する倫理的問題を説明できる。
15	QOL(quality of life:生活の質)	歯科衛生士としてのQOLとの関わり方と向上について説明できる。

歯科臨床概論

講 師	坪 口 哲 明	実施時期 単 位 数	第 1 学年前期 2 単位（30 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な基本的検査（口腔内検査、口腔機能検査、画像検査）および全身の一般検査の意義と関連を理解する。				
授 業 概 要	歯科衛生士として専門知識を円滑に習得できるよう、歯科医学、臨床を概論的に教授する。				
学 習 方 法	講義 診療見学				
成績評価の方法	定期試験（筆記）80%、レポート・出席状況等20% これらの総合評価。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 「歯科衛生士のための歯科臨床概論」 第2版 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科医学や臨床への入門科目です。 授業内容の予習、復習をして授業に臨み総括的な理解をしてほしい。				
参 考 書	栢豪洋 他編集 歯科臨床の基礎と概論 クインテッセンス出版 桜井善忠 監修「すぐに役立つ歯科の知識」わかば出版 その他、適宜紹介する。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1	歯科診療のながれの概要	第1回目の見学に向けて歯科診療の内容、歯科衛生士の役割を理解し、最低限の専門用語を理解する。
2・3	歯科医療の認識と対応	歯科医療の特徴および特異性を理解する。歯科衛生士は歯科医療の一翼を担っていることを自覚し、医の倫理をわきまえて診療する必要があることを認識する。
4	診療見学1	実際の臨床の現場で行われている治療を見学し、歯科医師と歯科衛生士の業務内容を把握する。
5・6	歯科患者の認識と対応	幼時から高齢者、障害を持つ人までライフステージ全てにおいて歯科診療の対象となり、歯科医師、歯科衛生士による専門的対応の重要性を理解する。
7	歯科疾患の概要、歯科診療所	歯科疾患の種類と診療内容を把握し、歯科診療所の設備、スタッフの職種スタッフ業務を理解する。
8	歯科治療の概要(歯科保存治療)	歯科保存治療の対象疾患および診療内容を把握し、その重要性を理解する。
9	歯科治療の概要(歯周治療)	歯周治療の対象疾患および診療内容を把握し、歯周疾患の予防、治療において歯科衛生士が重要かつ多くの役割を果たしていることを認識する。
10	歯科治療の概要(歯科補綴治療)	歯科補綴治療の対象疾患および診療内容を把握し、補綴装置を装着した後の歯科衛生士の役割を認識する。
11	歯科治療の概要(小児・矯正歯科治療)	小児歯科、矯正治療の対象疾患および診療内容を把握し、小児の発達と共に変化する口腔内環境に対応した指導管理の重要性、矯正治療の必要性を理解する。
12	歯科治療の概要(口腔外科治療)	口腔外科治療の対象疾患および診療内容を把握し、歯科衛生士として最低限必要な全身疾患の知識を習得する。
13	歯科治療の概要(障害者・高齢者歯科治療) 歯科医療の変遷とこれから	障害者・高齢者歯科診療の内容を把握し、知識を身につける。 今日の歯科医療が古くからどのような道を辿り、今日に至ったかを理解する。
14・15	診療見学 2	今までに習得した歯科臨床概論の知識を下に、第2回目の臨床見学に臨み、歯科衛生士専門学校の学生としてモチベーションをあげる。

保存修復学

講 師	宮 田 浩 光	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。				
授 業 概 要	歯の硬組織欠損の抑制、修復について科学知識および技術体系を学び、特に修復材料の特性・用途・取り扱いにおける歯科衛生士の担う役割を理解する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験100%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 医歯薬出版				
履修上の注意					
参 考 書	「わかる! できる! 実践カリオロジー」 医歯薬出版 「ミニマルインターベンションによるカリエスコントロール」 医歯薬出版 「健康で美しい口腔をつくる歯科衛生士のための審美歯科入門」 医歯薬出版 「コンポジットレジン修復のサイエンス&テクニック」 クインテッセンス出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	保存修復学の概要、う蝕についての考え方	保存修復のコンセプトと修復方法の種類を把握する。
2	保存修復の対象となる疾患	歯の硬組織疾患の種類、病態とその診断についての知識を得る。
3	診査方法	口腔検査法の種類とその目的を習得する。
4	歯の硬組織疾患の種類と病態	歯の硬組織疾患の種類、病態の知識を得る。う蝕症の分類、検査法、処置法について習得する。
5	窩洞と保存首服	窩洞の構成と分類を理解する。 診療のステップを理解し前準備ができるようになる。 切削器具の種類を理解する。
6	コンポジットレジン修復	コンポジットレジンの組成とその役割を理解する。接着の概念を理解する。
7	コンポジットレジン修復の手順	コンポジットレジン修復の適応症、臨床における修復手順、応用例について習得する。
8	アマルガム修復、セメント修復	各種セメントの特性とその用法について習得する。
9	鋳造修復	鋳造修復の手順、特徴と適応症について習得する。合着・接着用セメントの成分と合着・接着の手順を習得する。
10	ラミネートベニア修復、その他の修復法	ラミネートベニア修復に用いられる材料、特徴、適応症と修復の手順を習得する。

歯内療法学

講 師	梶 屋 順 一	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GI0)	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。				
授 業 概 要	歯の硬組織疾患から続発して起こる歯髄および根尖性歯周疾患を対象とし、その予防と治療を行うもので、各疾患の原因・分類を把握し、疾患と治療法を関連づけて理解させる。 そのために独自の図・表・動画を使用し、PCを用いた授業でそれらを明確に伝える事に重点をおく。 (100-120ページ程度のオリジナルプリントを配付) また重要項目については小テストで理解度を把握する。				
学 習 方 法	講義および実習(抜髄から根管充填までの総合的実習を通して、器具操作法や治療の流れを理解する)				
成績評価の方法	小テスト(60%=60点)、定期試験(40%=40点)				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 医歯薬出版 DHS歯科衛生士部(監) DHS国試の麗人Year Book「直前まとめ編」				
履修上の注意	小テストが60%・定期試験が40%の配点なので、欠席に注意を要する。				
参 考 書	岩本次男 他(編)「歯科保存マニュアル」 南山堂 歯科衛生士国家試験ポイントチェック <3> 歯科衛生士概論 臨床歯科医学上 歯科衛生士国家試験対策検討会				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯内療法の概要	- 歯の硬組織疾患の種類と原因を説明できる。 - 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状・検査法を説明できる。
2	歯髄保存療法・小テスト1回目(10点)	- 歯髄の保存療法(覆髄法)を説明できる。 - 特に覆髄法の中で暫間的間接覆髄法(IPC)や非侵襲暫間的間接覆髄法(AIPC)についても、その手法について説明できる。
3	歯髄の除去療法・小テスト2回目(10点)	- 歯髄の除去療法を説明できる。 - 麻酔抜髄時に使用する局所麻酔法についてその概要を説明できる。 - 仮封材の種類と基本的性質を説明できる。
4	根管治療・小テスト3回目(10点)	- 根尖性歯周組織疾患(感染根管)を説明できる。 - 根管治療に用いる器材の使用法を説明できる。
5	根管充填・小テスト4回目(10点)	- 根管充填に用いる薬剤・器材について説明できる。 - 根管充填法を説明できる。
6	外科的歯内療法・小テスト5回目(10点)	外科的歯内療法の種類・適応症および処置法を説明できる。
7	歯の外傷・小テスト6回目(10点)	外傷歯の治療法を説明できる。
8	歯内療法における安全対策	歯内療法における偶発事故とその防止策を説明できる。
9	歯内療法における歯科衛生士の役割	- 歯内療法に用いる薬剤や器具の準備ができる。 - 各種滅菌機器の操作、取り扱いができる。
10	まとめ・その他	- 歯の漂白法について適応症・種類・手順・術後指導の内容を説明できる。 - 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。 - 抜髄から根管充填までの過程を実習を通して総合的に理解する。

歯周治療学

講 師	富 永 尚 宏	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。				
授 業 概 要	歯科衛生士にとって、歯周治療学は一番重要な科目です。基礎的な知識が臨床に最も直結する分野のひとつです。エビデンスに基づいた歯周治療の技術を身に着けることが重要です。しっかりとした理論武装は臨床の現場において心強い助けになります。実際の臨床例を用いて歯周治療を理解しながら知識を身に着けていけるようにしていきます。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	定期試験 90%, 小テスト10%, の総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」 医歯薬出版				
履修上の注意	教科書とそれに合わせた実際の症例の写真・動画を供覧しながら授業を進めていきます。少なくともその回の教科書は読んで予習をしておいてください。適宜口頭試問で理解度を確認していきます。確実に知識をつけていけるよう努力してください。分からないことがあれば、その場で質問してください。				
参 考 書	天野敦雄 著「歯科衛生士のための 21世紀のペリオドントロジーダイジェスト」 クインテッセンス出版 丸森賢二 編「ブラッシング指導Q&A92」 医歯薬出版 内藤 徹 著「知って得した! 歯周治療に活かせるエビデンス」 クインテッセンス出版 山本浩正 著「Dr.Hiroの実践! 歯周治療」 クインテッセンス出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯周治療とは	歯周病の有病状況, 歴史的変遷, 歯周治療の意義, 目的を理解する。
2	正常な歯周組織の構造と機能	歯周組織の構成要素, 防御機構, 再生能力, 加齢変化を理解する。
3	歯周病の分類	歯肉炎と歯周炎の違い, 歯肉病変, 歯周病の分類について理解する。
4	歯周病の原因, 歯周医学	歯周病の原因, 歯周医学インプラント周囲炎について理解する。
5	歯周治療の進め方	歯周病の予防法, 歯周治療の基本的考え方, 進め方, 内容, 概略を理解する。
6	歯周病の検査	一般検査による判定法, 歯周組織の破壊程度の診査法を理解する。
7	歯周基本治療	歯周基本治療の目的, 内容, 方法, 歯科衛生士の役割について理解する。
8	歯周外科治療・種々の歯周外科治療	歯周外科治療の目的, 分類, 適応, 使用器具, 術後の注意点を理解する。
9	歯周治療としての口腔機能回復治療	歯周治療における咬合調整, 矯正治療, 固定法, 補綴治療の意義を理解する。
10	メンテナンス	メンテナンスの重要性, 意義, 患者教育, 位置づけを理解する。
11	歯科衛生士の役割: 歯周治療の進め方 ～スケーリング・ルートプレーニング	歯周治療を進めるに当たり, 基本処置を含めて歯科衛生士の役割を理解する。
12	歯科衛生士の役割: 歯周外科治療	歯周外科治療における歯科衛生士の行うべき事項を具体的に理解する。
13	実習: 超音波スケーラーの使用法	歯石除去のためのスケーラーチップの角度等, 根面への当て方を理解する。
14	実習: ルートプレーニングの実際, キュレット の使用法	実際の歯石の硬さを体感する。歯根面へのデリケートな操作を体得する。
15	歯科衛生士の役割: メンテナンス, SPT	メンテナンスで行うべき事項を具体的に理解する。

歯科補綴学

講 師	添 野 光 洋	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。				
授 業 概 要	補綴歯科治療の意義や目的とその実際、そして、補綴治療時における歯科衛生士の役割。				
学 習 方 法	講義・小テストの実施および解説。				
成績評価の方法	定期試験を中心に、授業内容の理解(小テスト)および授業への参加度を評価し算出する。 定期試験80%、小テスト、出席状況等の総合評価20%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」 医歯薬出版				
履修上の注意	補綴物の特性を知る事で、口腔衛生・口腔機能の理解を深める。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯科補綴の概要	補綴装置の種類と適応および用いられる器材を説明できる。
2	歯科補綴治療の基礎知識	歯および歯列の形態との位置的関係、顎口腔系の機能、咬合を説明できる。
3	補綴歯科治療における検査	各種検査の手順の説明および検査器材の準備ができる。
4	クラウン・ブリッジ治療の概要	補綴治療の臨床ステップおよび技工操作を概説できる。ブリッジの特徴・構成および製作法を説明できる。プロビジョナルレストレーションの概要を説明できる。
5	クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助	印象採得や咬合採得の手順の説明および用いる器材の準備ができる。プロビジョナルレストレーションの製作手順および調整方法を説明できる。
6	有床義歯治療の概要	有床義歯の支持装置、把持装置および維持装置を説明できる。咬合採得する下顎位と咬合採得法を概説できる。義歯の調整、リライニング、リベースおよび修理を概説できる。
7	有床義歯治療の流れと診療の補助Ⅰ	有床義歯における印象採得や咬合採得の手順の説明および用いる器材の準備ができる。咬合床作製の手順および咬合床用材料の性質を説明できる。
8	有床義歯治療の流れと診療の補助Ⅱ	床義歯装着時に用いる器材の準備ができる。義歯装着後の指導およびメンテナンスの重要性を説明できる。
9	インプラント治療の概要および診療補助	インプラントの特徴の説明およびインプラント補綴装着後の指導ができる。
10	補綴歯科治療における器材	補綴治療に用いられる器材を説明できる。

矯正歯科学

講 師	渡 邊 悦 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解する。				
授 業 概 要	不正咬合による障害と矯正治療の意義を理解させ、矯正器具の管理やブラッシング指導などの患者管理についての知識を授ける。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験(筆記試験)100%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科矯正における歯科衛生士の役割を理解してほしい。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	矯正歯科治療の概要	矯正歯科治療について説明できる。
2	成長・発育	顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる。成長発育に伴う正常咬合(乳歯列から永久歯列)を説明できる。
3	正常咬合と不正咬合	不正咬合の原因と種類を列挙できる。
4	矯正歯科診断	不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる。
5	矯正歯科治療と“力”	矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。
6	矯正治療	矯正装置の種類、構造および機能を説明できる。
7	矯正歯科治療の実際(1)	矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。
8	矯正歯科治療の実際(2)	矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。
9	矯正歯科治療における 歯科衛生士の役割(1)	矯正治療前、治療中および保定期間における口腔衛生管理法を説明できる。
10	矯正歯科治療における 歯科衛生士の役割(2)	矯正治療前、治療中および保定期間における口腔衛生管理法を説明できる。

口腔外科学

講 師	二 宮 秀 則	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解する。				
授 業 概 要	顎・口腔領域に生じるう蝕・歯周病以外の疾患について、診断と治療を理解する。 また、口腔外科処置や手術における、歯科衛生士の役割や業務についても習得する。				
学 習 方 法	講義・VTR視聴				
成績評価の方法	定期試験				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士として社会に出てから「もっと勉強しておけばよかった」と感じる科目です。 単なる国家試験対策に留まらず、幅広い知識を習得してほしい。				
参 考 書	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議 (監) 口の中がわかる ビジュアル歯科口腔科学読本 クインテッセンス出版 2017年				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	口腔外科の概要	顎・口腔領域に生じる各種疾患を分類できる。口腔病変と全身疾患の関係を説明できる。歯科治療で問題となる基礎疾患と対応について説明できる。
2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常	先天異常(口唇・口蓋裂など)と発育異常(顎変形症など)の症状と治療法を説明できる。
3	口腔領域の損傷	歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法を説明できる。
4	顎関節疾患	顎関節疾患(脱臼、顎関節症、顎関節強直症など)の症状と治療法を説明できる。
5	口腔粘膜の病変	各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を説明できる。口腔に症状を現す血液疾患(貧血、白血病、血友病、特発性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固亢進症候群[DIC]など)の特徴を説明できる。
6	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患	歯槽部、顎骨および周囲組織の炎症(菌性感染)の原因、感染経路と症状および治療法を説明できる。
7	顎・口腔領域の嚢胞性疾患	顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法を説明できる。
8	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	顎・口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状および治療法を説明できる。
9	唾液腺疾患	唾液腺疾患(唾液腺炎、流行性耳下腺炎、唾石症、唾液腺腫瘍)の症状と治療法を説明できる。
10	口腔領域の神経疾患	顎・口腔領域の神経疾患(三叉神経痛、三叉神経麻痺、顔面神経麻痺、舌痛症、オーラルディスキネジアなど)の症状を説明できる。
11	口腔外科手術(1)	拔牙・口腔外科小手術(消炎手術、止血処置、歯槽骨整形術、根尖切除術、嚢胞摘出術・嚢胞開窓術、骨折手術、口腔インプラント手術)の手順を説明できる。
12	口腔外科手術(2)	拔牙の適応と禁忌を説明できる。拔牙・口腔外科小手術の術中・術後の局所的偶発症および術後の注意を説明できる。止血処置と縫合処置を説明できる。
13	歯科麻酔と全身管理(1)	麻酔の目的を説明できる。バイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度[SpO ₂]を説明できる。各種局所麻酔法と施術時の注意点、局所的偶発症を説明できる。
14	歯科麻酔と全身管理(2)	精神鎮静法と全身麻酔の適応症と種類を説明できる。歯科治療時の全身的偶発症(神経性ショック、過換気症候群、アナフィラキシーショック)とその対応を説明できる。救急蘇生法について説明できる。
15	周術期口腔ケア	がん手術、心臓・循環器手術や臓器移植手術における手術前後の口腔衛生管理による手術時のトラブル防止、誤嚥性肺炎や局所感染の予防方法を説明できる。がんの放射線治療・化学療法による口腔粘膜炎症の予防とそれに対する口腔衛生管理を説明できる。

小児歯科学

講 師	有 田 光太郎	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。				
授 業 概 要	小児歯科学の基本（小児期の生理、心身の発育の基本パターン、顎顔面領域の発育様相、小児期特有な口腔領域の疾患など）の理解を深めること。 小児の特性を十分に理解して小児歯科診療の補助ができるようになる。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験80%、レポート、出席状況20%による総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会（監） 歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」 医歯薬出版				
履修上の注意	講義を通じて歯科衛生士としてだけでなく、将来の母親として子どもの健全な発育支援ができるようになる。				
参 考 書	山下 浩 編集 「小児歯科学」 医歯薬出版 長坂信夫 編集 「臨床小児歯科学」 南山堂				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1	小児歯科学の目的	小児歯科の変化や意義を説明できる。
2	小児の生理と小児の心身の発育	小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる。
3	顎顔面領域の発育	顎顔面頭蓋の発育の特徴及び評価法を説明できる。
4	歯列・咬合の発育と異常	歯列・咬合の正常発育とその障害を説明できる。
5	乳歯・幼若永久歯の特徴	乳歯と幼若永久歯の解剖学的特徴を説明できる。
6	乳歯と幼若永久歯う蝕の特徴	小児う蝕の特徴、う蝕予防及び進行抑制法を説明できる。
7	小児の歯科疾患	小児の口腔内の異常や疾患を説明できる。
8	子どもへの対応法	小児歯科と成人歯科との対応法の違いについて説明できる。
9	乳歯、幼若永久歯のう蝕治療法の特徴	乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法を説明できる。
10	乳歯、幼若永久歯の歯内療法について	乳歯・幼若永久歯の歯内療法を説明できる。
11	小児の外傷の処置	小児の歯の外傷の種類と処置法を説明できる。
12	咬合誘導	咬合誘導の概念ならびに保隙装置の種類、適応症及び留意点を説明できる。
13	定期診査について	定期検査の意義や検査項目を説明できる。
14	口腔機能の発達と育成	口腔機能の発達の評価項目や訓練を説明できる。
15	障害のある子どもの生活支援	障害児の特徴と歯科治療を行う上での問題点を説明できる。

障害者歯科疾患論

講 師	釜 崎 陽 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	障害のある児または者の歯や口腔の特徴と歯科保健・医療・福祉を理解し、歯科衛生業務を行うことができる。				
授 業 概 要	障害のある人に対する歯科医療においては、歯科衛生士の役割は大きくかつ重要である。本授業では、障害のある人に対する歯科医療の総論と各論について教授する。これにより、障害のある人に対する歯科医療における歯科衛生士の役割や業務について理解させる。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験100%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」 医歯薬出版				
履修上の注意	口腔保健センターの臨床実習(見学)があるので、授業の復習を行い臨床実習へ結びつけてほしい。				
参 考 書	緒方克也、柿木保明 編 歯科衛生士講座 障害者歯科学 2014 永末書店 日本障害者歯科学会 編 スペシャルニーズデンティストリー「障害者歯科」2017 医歯薬出版 長田 豊「障害のある方の歯とお口のガイドブック」 2014 デンタルダイヤモンド社 長田 豊、和泉雄一 監修 Periodontics for Special needs Patients 障害者・有病者の歯周治療 2017 デンタルダイヤモンド社 金子芳洋 編「食べる機能の障害」1987 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標(SBOs)
1	障害の概念	スペシャルニーズおよび障害の概念を説明できる ICFについて説明できる 障害の受容、リハビリテーションとQOLが説明できる ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる 障害のある人と福祉制度について説明できる
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①知的障害	左記の各障害について、定義と概要、口腔と歯の特徴、歯科治療と歯科衛生業務における留意点について理解し、説明できる
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ②運動障害	
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ③感覚障害、音声言語障害、精神障害	
5	障害のある人に対する歯科医療と行動調整	障害のある人とのコミュニケーション法について説明できる 歯科医療において用いられる行動調整法と歯科衛生士の役割を説明できる
6	健康支援と口腔衛生管理	障害のある人の口腔ケアを説明できる 専門的口腔ケアを説明できる
7	リスク評価と安全管理	障害のある人に対する歯科医療におけるリスクおよびリスク評価について説明できる 医療機関における安全管理の概要を説明できる 障害のある人に対する歯科医療における感染対策の基本を説明できる 障害のある人に対する歯科医療における感染予防対策の留意点を列挙する
8	摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	摂食・嚥下障害と口腔管理および栄養管理について説明できる 摂食・嚥下障害の評価法について説明できる 摂食機能療法(摂食介助法、機能訓練法)について説明できる 小児期の評価と対処法について説明できる 成人期・老年期の評価と対処法について説明できる 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割について説明できる
9	地域における障害者歯科	地域医療連携の必要性を説明できる 医科歯科連携を説明できる
10	障害を有する人に対する歯科衛生過程	障害のある人に対する歯科医療における典型的な症例を歯科衛生過程で学習する

高齢者歯科疾患論

講 師	森 本 智	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 1 単位 （1 5 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。				
授 業 概 要	高齢者の全身および精神的な特徴を把握し、歯科臨床に於いての適切な対応や口腔保健管理について習得する。				
学 習 方 法	講義・VTR視聴				
成績評価の方法	定期試験 100%				
教 科 書	渡邊 誠 著「歯科衛生士講座・高齢者歯科学」第3版 永末書店				
履修上の注意					
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SBOs）
1	高齢者をとりまく社会	高齢者を取り巻く社会環境や社会保障について知識を得る。
2	加齢の科学	加齢に伴う身体および口腔の生理的変化と病的変化について知る。
3	高齢者における口腔領域の疾患	齲蝕、歯周病、粘膜疾患など高齢者に特有の病態を学ぶ。
4	全身疾患の把握と対応	有病高齢者における病態の把握と対応策について学ぶ。
5	高齢者歯科医療の場	外来および訪問診療における医療現場での対応について学ぶ。
6	口腔衛生管理	高齢者に特有の口腔病態の把握とその対応策について学ぶ。
7	摂食・嚥下障害とリハビリテーション	摂食・嚥下障害のメカニズムと対応策について学ぶ。
8	介護保険における歯科衛生士の役割	居宅療養管理指導などの算定要件について理解する。

歯科口腔放射線論

講 師	榮 田 智	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 1 単位 (15 時間)	実務経験	○
一般目標 (GI0)	エックス線写真撮影時の補助のために必要なエックス線の知識、撮影手順、放射線防護の方法を習得する。				
授 業 概 要	歯科放射線学の概要と基礎を教授する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験80%、出席状況20%				
教 科 書	有地榮一郎(監)「わかりやすい歯科放射線学」 第3版 学建書院				
履修上の注意	授業内容の予習、復習をして授業に臨み、臨床の場で役立つように歯科放射線学の知識を身につけてほしい。				
参 考 書	岡野友宏、小林馨、有地榮一郎(編)「歯科放射線学」 第6版 医歯薬出版 勝又明敏、浅海淳一、田口明、森本泰宏(編)「解説と例題でわかる歯科放射線テキスト」末永書店				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	放射線の基礎知識	・身のまわりの放射線を理解する。 ・放射線の種類を理解する。 ・放射能と核分裂について理解する。 ・放射線の単位を理解する。 ・エックス線の性質を理解する。 ・エックス線の発生について説明できる。 ・エックス線のエネルギーと波長の関係を理解する。 ・エックス線の発生量に関する因子を理解する。 ・エックス線の物質との相互作用を理解する。 ・エックス線の減弱について理解する。
2	歯科用エックス線装置と各種エックス線装置	・口内法エックス線装置の構造を理解する。 ・パノラマエックス線装置の構造を理解する。 ・頭部エックス線規格撮影装置の構造を理解する。 ・頭蓋骨、顎骨、顎関節の撮影法について理解する。 ・特殊な検査法を理解する。 ・歯科領域のおもな造影検査法を理解する。
3	エックス線画像の形成	・エックス線フィルムの構造を理解する。 ・口内法と口外法の撮影に使用するフィルムを選択する。 ・エックス線フィルムの黒化度、コントラストを理解する。 ・良いエックス線写真と撮影時の幾何学的因子について理解する。
4	口内法の補助と口外法の補助	・エックス線撮影室への患者の誘導を理解する。 ・撮影装置の準備ができる。 ・基準線や基準面を理解する。 ・口内法のフィルムの位置づけ、固定を実施する。 ・口外法の位置づけを理解する。 ・フィルムの処理を理解する。
5	デジタルエックス線撮影システム	・デジタルエックス線撮影の特徴を理解する。 ・デジタルエックス線撮影システムの種類を理解する。 ・デジタル画像の特徴を理解する。
6	エックス線写真の正常解剖と病変の画像例	・口内法における正常なエックス線画像を説明できる。 ・口内法における歯および歯周組織の疾患を指摘できる。 ・パノラマエックス線画像の正常像を説明できる。 ・パノラマエックス線画像における疾患を指摘できる。
7	放射線生物学と放射線治療	・放射線の生体に対する影響を理解する。 ・放射線障害の分類を覚える。 ・放射線治療の方法を理解する。 ・放射線治療の副作用を理解する。 ・放射線治療患者の口腔管理を理解する。
8	放射線防護と管理	・放射線防護の目的を理解する。 ・被曝の分類を理解する。 ・放射線防護体系を理解する。 ・放射線防護の実際を理解する。 ・被曝線量の測定器を理解する。

う蝕・歯周予防処置法

講 師	森 川 弥 之 中島真智子・牧山俊美	実施時期 単 位 数	第 1 学年前・後期 4 単位 （160時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	歯科予防処置の基礎的知識について十分理解させ、その手技を習熟させるとともに応用の過程を習得する。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	記述試験(定期試験)をおおよそ80%とし、残り20%は実技試験、課題、レポート、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士にとって重要な知識と手技であり、臨床に出てからも応用できるよう十分理解し身につける必要がある。授業内容の予習・復習をして授業に臨むとともに、手技習得のための自主練習を怠らないなどの学習姿勢が求められる。				
参 考 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 「歯周病学」 医歯薬出版 中垣晴男他(編著) 「歯科衛生士のための歯周病予防処置法」 医歯薬出版 金子真弓、佐野明美(著) 「一から学ぶスクレーピング・ルートプレーニング」 医歯薬出版				

授業計画

[62. 65. 66 : 森川弥之]

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	う蝕・歯周予防処置法の概要 【講義】	歯科衛生士法の法的な位置づけを説明できる。 歯科予防処置論の定義を説明できる。 歯周組織の構成要素を列挙できる。 口腔内の付着物及び沈着物を列記できる。
2	う蝕の基礎知識 【講義】	う蝕の分類を説明できる。 口腔内の補綴物・充填物の特徴と記号を列記できる。 修復物・補綴物を判断できる。 プラークや歯石の付着状況について説明できる。
3 4	口腔の基礎知識、基本姿勢、探針操作 【講義・実習】	正常な口腔の構成要素を説明できる。 歯周組織の構成要素を説明できる。 歯冠および歯根の形態を説明できる。 口腔の機能について説明できる。 エキスポローラーの種類と特徴を説明できる。 エキスポローラーの基本的操作ができる。
5 12	シクルスケーラーマネキン実習 【講義・実習】	手用スケーラーの種類と特徴を説明できる。 シクルスケーラーの操作方法を説明できる。 マネキン模型上でシクルスケーラーを操作できる。
13 14	シクルスケーラーシャープニング 【講義・実習】	シャープニングの原則および目的を説明できる。 スケーラーのシャープとDullの違いを比較できる。 シャープニングに必要な器材を準備できる。 砥石を用いてシクルスケーラーをシャープニングできる。
15 16	シクルスケーラー 【実技試験】	マネキンを使用し、与えられた部位を正確に操作することができる。 正しいポジショニングを実施できる。
17 18	口腔内診査 【相互実習】	歯・口腔の健康状態を診査できる。 修復物・補綴物を判断できる。 プラークや歯石の付着状況について診査できる。 患者に配慮し、正しい探針操作ができる。 患者の立場を理解できる。
19 24	シクルスケーラー 【相互実習】	患者に配慮したシクルスケーラー操作ができる。 スクレーピングの目的、意義について患者に説明できる。 患者を尊重した言動、操作を表現できる。 患者の立場を理解できる。
25	歯周病の基礎知識 【講義】	歯周病の分類と原因を説明できる。 歯周病のプロセスを説明できる。 歯周病に関連する指標を説明できる。
26 27	歯周組織の診査 【講義・実習】	プロービングから得られる情報を列記できる。 歯周プローブの種類と操作方法を説明できる。 マネキン模型上で歯周プローブ操作ができる。 マネキン模型上で歯間離開度と動揺度を診査できる。

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
28 29	歯周組織診査① (歯間離開度、動揺度検査、PMA診査) 【相互実習】	歯周検査の必要性と目的を説明できる。 患者に配慮した診査ができる。 患者の立場を感じることができる。 診査結果を正確に記録できる。 診査結果と口腔内状況を関係づけることができる。
30 33	歯周組織診査②(プロービング) 【相互実習】	歯周検査の必要性と目的を説明できる。 患者に配慮し、安全かつ正しいプローブ操作ができる。 患者の立場を感じることができる。 診査結果を正確に記入できる。
34 39	キュレットスケーラーマネキン実習 【講義・実習】	キュレットスケーラーの使用目的と特徴を説明できる。 キュレットスケーラーの操作方法を説明できる。 マネキン模型上でキュレットスケーラーを適切に操作できる。
40 41	歯周疾患の指標 キュレットスケーラーシャープニング 【講義・実習】	歯周病に関連する指標を説明できる。 シャープニングに必要な器材を準備できる。 砥石を用いてキュレットスケーラーをシャープニングできる。
42 43	キュレットスケーラー 【実技試験】	マネキンを使用し、与えられた部位を正確に操作することができる。 正しいポジショニングを実施できる。 マネキンを患者と想定し、患者への配慮を表現できる。
44 51	キュレットスケーラー 【相互実習】	スケーリングの目的、意義について患者に説明できる。 患者に配慮したキュレットスケーラー操作ができる。 患者の立場を理解できる。 術中、唾液や血液を排除し、施術部位を確認しながら操作できる。 術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。
52 53	歯面清掃・歯面研磨 【講義・実習】	歯面研磨、歯面清掃の意義を列記できる。 歯面清掃器材の種類と使用方法を記述できる。 歯面清掃剤の種類と用途を記述できる。 マネキン模型上で歯面清掃器材を操作できる。
54 55	口腔内診査復習実習(合同TBI関連) 【相互実習】	歯周病に関連する指標を説明できる。 歯、口腔、歯周組織の診査ができる。 診査結果を患者に説明できる。 患者を尊重した言動、操作を表現できる。
56 61	歯面清掃・歯面研磨 【相互実習】	歯面研磨、歯面清掃の意義を説明できる。 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる。 歯面清掃剤の種類と用途を説明できる。 患者に配慮した歯面清掃器材の操作ができる。 禁忌症などの注意事項を把握し、安全に配慮する。 術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。
62 64	う蝕活動性試験 【講義・実習】	う蝕活動性試験の条件を説明できる。 う蝕活動性試験の検体と評価項目を説明できる。 う蝕活動性試験を実施できる。 検査結果を分析し患者説明ができる。
65 68	フッ化物応用、小窩裂溝・塞法 【講義・実習】	フッ化物薬剤の種類と取扱い方を説明できる。 フッ化物中毒量を説明できる。 小窩裂溝充填塞材の種類と特徴を説明できる。 マネキン模型上で小窩裂溝・塞を実施できる。 フッ化ジアンミン銀の取り扱い上の注意点を理解できる。
69 70	超音波・エアスケーラー 【講義・実習】	パワースケーラーの種類と特徴を説明できる。 超音波スケーラーの使用方を説明できる。 エアスケーラーの使用方を説明できる。 模型上で超音波、エアスケーラーを操作できる。
71 74	超音波・エアスケーラー 【相互実習】	パワースケーラーの目的・意義を説明できる。 患者に配慮したパワースケーラーの操作ができる。 患者の立場を理解できる。 パワースケーラーの準備、メンテナンスができる。 術者、患者に配慮したアシスタントワークができる。
75 80	学年末総合実習 【相互実習】	制限時間内に安全かつ正確な歯周組織診査ができる。 プロービング、スケーリング技術を自己評価できる。 術者保持のパキューム操作を実施できる。 患者に配慮したフッ化物歯面塗布法を実施できる。 フッ化物歯面塗布実施後の注意点を説明できる。 自らの技術を評価し、今後の課題を示すことができる。

う蝕・歯周予防処置法

講 師	中島 真智子 牧 山 俊 美	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 （80 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	歯科衛生士の主要業務の根幹となる歯科予防処置の基礎から応用の課程を習得する。特に手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身につける。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	前期は定期試験をおおよそ70%、残り30%は実技試験、課題、授業態度、出席状況等を総合し評価する。後期は定期試験をおおよそ60%、20%は実技試験、20%は症例発表、課題、授業態度、出席状況を総合し評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	1年次の基礎を踏まえ、う蝕・歯周予防処置法の業務の実践を模擬的に行う。積極的な姿勢で授業に臨むとともに、手技習得のための自主練習を怠らない等の学習姿勢が求められる。				
参 考 書	①全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」 医歯薬出版 ②新・歯科衛生士教育マニュアル「歯周治療」 クインテッセンス出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	総合患者実習の意義	主要三科の内容を具体的に説明できる。 総合患者実習の目的を説明できる。 患者の心理状態に配慮できる。
2	継続管理による業務記録	主要三科の内容を具体的に説明できる。 総合患者実習の目的を説明できる。 患者の心理状態に配慮できる。
3	根面デブリドメント	根面デブリドメントの目的を説明できる。 根面デブリドメントの必要器材を説明できる。 根面デブリドメントの手順を説明できる。 根面デブリドメント処置時の注意事項を説明できる。 適応歯を選択する。 処置後の患者への諸注意事項を説明できる。
4	根面デブリドメント相互実習	根面デブリドメントの必要器材を説明できる。 根面デブリドメントの手順を説明できる。 根面デブリドメント処置時の注意事項を説明できる。 適応歯を選択する。 処置後の患者への諸注意事項を説明できる。
6	総合患者プレ実習練習	総合患者実習の内容を説明できる。 患者の心理状態に配慮できる。 苦手操作の把握ができる。
8	総合患者プレ実習①	総合患者実習の術式を説明できる。 安全な機械操作ができる。 患者の心理状態に配慮できる。
14	総合患者プレ実習反省	総合患者実習の目的を説明できる。 症例より情報を収集する。 症例より問題点を判断する。 症例より問題点に対する対応法を予測する。 項目ごとに各自の到達目標を持ち実習に臨む総合患者実習の目的を説明できる。 得た情報を記録する。 体調を整え自己管理する。 患者の心理状態に配慮できる。
15	総合患者プレ実習練習	総合患者実習の術式を説明できる。 安全な機械操作ができる。 患者の心理状態に配慮できる。
17	歯周疾患への対応・エックス線読影	エックス線読影の基本を説明できる。 エックス線より情報を収集する。 エックス線より問題点を具体的に説明できる。 症例より問題点に対する。対応法を予測する。 得た情報を記録する。
19	根分岐部病変へのアプローチ	ファークーションプロービングの目的を説明できる。 ファークーションプロービングの必要器材を説明できる。 ファークーションプロービングの手順を説明できる。 ファークーションプロービング時の注意事項を説明できる。 ファークーションプロービングの安全な操作ができる。
21	スクーリング・プロービング実技試験	1～2年次で習得した技術を活かしたスクーリング・プロービングができる。 歯石の沈着状態が判断できる。 歯石沈着状況に応じたスクーリングの器具選択ができる。 沈着している歯石を、短時間で確実に除去できる。
23	総合患者プレ実習②	総合患者実習の術式を説明できる。 安全な機械操作ができる。 患者の心理状態に配慮できる。
29	総合患者実習	総合患者実習の一連の内容を実施する。 総合患者実習の一連の手技を把握する。 実習時の患者の心理を理解する。 今回実習体験を今後の臨床実習に活かす。
35	総合患者実習症例発表	実習によって得た患者の情報を整理する。 実習時の手技を評価する。 第2回総合患者実習で、今回の反省を行動に活かす。 他の患者の症例を討議する。
	実技試験	総合実習

口腔保健管理法 (継続管理)

講 師	中島 真智子 牧 山 俊 美	実施時期 単 位 数	第 3 学年前・後期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯周疾患の継続管理についてセルフプロフェッショナルケアの役割分担を理解し、専門的処置を実施できる。				
授 業 概 要	歯科衛生士が患者に対し、継続的に指導する上で必要な情報収集力・分析力・観察力を身につける。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	前期は定期試験をおおよそ80%、残り20%は症例発表、課題、授業態度、出席状況等を総合し評価する。 後期は定期試験をおおよそ90%、10%は課題、授業態度、出席状況を総合し評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士業務として臨床現場で日常的に行う内容です。 対応能力がしっかり身につくよう、真剣な態度で臨み、予習復習を怠らないこと。				
参 考 書	①下野正基(監) 「歯科衛生ケアプロセス」 医歯薬出版 ②日本歯周病学会(編) 「歯科衛生士のための歯周治療ガイドブック」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯周疾患への対応・エックス線読影	エックス線読影の基本を説明できる。 エックス線より情報を収集する。 エックス線より問題点を具体的に説明できる。 症例より問題点に対する対応法を予測する。 得た情報を記録する。
2 3	小窩裂溝填塞法相互実習	小窩裂溝填塞法の術式を説明できる。 フッ化物歯面塗布法の術式を説明できる。 器材の準備ができる。 感染予防対策ができる。 口腔内観察ができる。 安全な器械操作ができる。 患者への適切な配慮ができる。
4 5 9	第2回総合患者実習	第1回総合患者実習の着目部位、その他患者の変化がわかる。 患者に適したプロフェッショナルケアを選択し、実践する。 患者がセルフケアを実践するために、その重要性を理解し指導する。 実際に患者さんを観察し、自分の立てた予想内容を検討する。 第1回総合患者実習時に自分に不足していたことを列記する。 第2回実習で患者さんに対応し自分に不足していたことを列記する。 患者を継続的に管理する意味を考える
10 11 12	総合患者実習症例発表会、評価 (保健指導と合同)	第1, 2回総合患者実習の実施内容を比較する。 実習時の患者の心理を理解する。 継続管理について理解する。 歯科衛生過程を展開することができる。 パワーポイントを使用し症例を発表できる。
13	業者歯科衛生士による講話 (知覚過敏の対応)	知覚過敏の原因について説明できる。 知覚過敏患者への対応を説明できる。 企業における歯科衛生士の業務を理解する。
14 15	総合学習(セミナー) シャープニングセミナー	シャープニングを正確に実践できる。 スクレーパーの形態を理解する。 企業における歯科衛生士の業務を理解する。

歯科保健指導（含訪問歯科保健指導）

講 師	生 田 佳 代 中尾 亜希子	実施時期 単 位 数	第 1 学年前・後期 3 単位 （1 2 0 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	歯科保健指導は人々の生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために専門的立場から支援することである。第1学年では、様々な対象者に科学的根拠をもって対応できるよう歯科保健指導に関する基本的知識を身につけていく。				
学 習 方 法	講義、デモンストレーション、セミナー、グループディスカッション、基礎実習（相互実習を含む）				
成績評価の方法	記述試験（定期試験）をおおよそ70%とし、残り30%は実技試験、課題、レポート、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会（監）歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科予防処置論、口腔衛生学と重複する内容もあるため、他科目の教科書や資料も参考にとすること。本授業で配付した資料は必ず復習し、次回の授業の準備として活用すること。また、普段から幅広い知識や情報の収集を心掛け、同時にコミュニケーション能力、接遇作法、話法等も身につけて欲しい。				
参 考 書	①伊藤公一（編）「新版 家族のための 歯と口の健康百科」 医歯薬出版 ②松田裕子（編）「改訂 歯ブラシ事典」 学建書院 ③松田裕子（編）「オーラルヘルスケア事典」 学建書院 ④全国歯科衛生士教育協議会（編）「よくわかる歯科衛生過程」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1	歯科保健指導の概要	①歯科衛生士の法的な位置づけを説明できる。 ②歯科保健指導論の定義を説明できる。 ③健康の定義を説明できる。
2	口腔の基礎知識 う蝕と歯周病の基礎知識 （口腔内の付着物・沈着物）	①口腔の構造と機能について列記できる。 ②口腔の付着物、沈着物を列挙できる。 ③プラークの成分や分類を列挙できる。 ④歯石の成分や分類を列挙できる。
3	食生活指導のための基礎知識	①行動変容のステップを説明できる。 ②食生活・食習慣の背景を知り、現代における問題点を説明できる。 ③医療面接の目的を説明できる。
4 5	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	①情報収集の目的や得られる情報を説明できる。 ②口腔内の観察項目とポイントを列記できる。（歯垢染色剤を含む） ③口腔清掃の指数を説明できる。 ④歯垢染色時の注意事項を説明できる。 ⑤プラーク指数（OHI-DI）を正確に算出できる。 ⑥口腔清掃状態について考察できる。
6 5 15	歯科衛生介入のための歯科保健指導 ①歯ブラシ ②歯磨剤 ③ブラッシング法 ④その他の清掃方法	①歯ブラシの種類と特徴を説明できる。 ②各種ブラッシング方法の特徴を説明できる。 ③各種ブラッシング方法を実施できる。 ④歯磨剤について説明できる。 ⑤フッ化物配合歯磨剤の特徴と使用方法を説明できる。 ⑥補助的清掃器具の種類と特徴、適応を説明できる。 ⑦各種補助的清掃器具を操作できる。
12 20	歯科衛生過程の進め方 ①概要	①歯科衛生過程の基本的な考え方を説明できる。 ②歯科衛生アセスメントについて説明できる。 ③歯科衛生診断について説明できる。 ④歯科衛生計画立案について説明できる。 ⑤歯科衛生介入について説明できる。 ⑥歯科衛生評価について説明できる。 ⑦歯科衛生過程における書面化（記録）について説明できる。
16 5 19	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理（口腔内写真） ①正面観 ②咬合面観 ③側面観	①情報収集の目的や得られる情報収集を説明できる。 ②口腔内の観察項目とポイントを列挙できる。 ③画像からの情報収集を説明できる。 ④カメラの取り扱いを円滑に操作できる。 ⑤撮影した口腔内写真を評価できる。

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
21	総合学習(前期まとめ)	①歯科保健指導の概要を説明できる。 ②口腔の基礎知識を説明できる。 ③口腔の付着物・沈着物を説明できる。 ④ブラークの指数を算出できる。 ⑤口腔の清掃方法について説明できる。 ⑥歯科衛生過程の概要を説明できる。
23 27 28	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 ①粘膜観察 ②位相差顕微鏡	①舌・粘膜の正常な状態と異常な状態を観察できる。 ②位相差顕微鏡を円滑に操作できる。
24	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理(口腔内写真) ①正面観 ②咬合面観	①情報収集の目的や得られる情報収集を説明できる。 ②口腔内の観察項目とポイントを列挙できる。 ③画像からの情報収集を説明できる。 ④カメラの取り扱いを円滑に操作できる。 ⑤撮影した口腔内写真を評価できる。
25 26	実技試験(口腔内清掃法)	①指定されたブラッシング方法の適応を説明できる。 ②指定されたブラッシング方法に適した歯ブラシを選択できる。 ③指定されたブラッシング方法を顎模型上で実施できる。 ④指定されたブラッシング方法の操作方法を説明できる。 ⑤指定されたブラッシング方法の特徴や留意点を説明できる。
29 30	ライフステージに対応した歯科衛生介入 健康教育・保健指導の技法(集団指導) ①学齢期の特徴 ②小学校ブラッシング指導準備	①集団指導法の特徴を列記できる。 ②集団指導における話の組み立て方を列記できる。 ③学齢期の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる。 ④臨地実習について討議できる。
31 33	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ①青年期の特徴 ②合同ブラッシング指導準備	①青年期の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる。 ②青年期に合った食生活を説明できる。 ③合同ブラッシング指導の目的、内容を説明できる。 ④合同ブラッシング指導の内容に沿った計画を立てることができる。 ⑤合同ブラッシング指導について討議できる。
34 38	歯科衛生過程の進め方 ①概要(復習) ②症例検討Ⅰ ③症例検討Ⅱ	①歯科衛生アセスメントについて説明できる。 ②歯科衛生診断について説明できる。 ③歯科衛生計画立案について説明できる。 ④歯科衛生介入について説明できる。 ⑤歯科衛生評価について説明できる。 ⑥歯科衛生過程における書面化(記録)について説明できる。 ⑦歯科衛生アセスメントを実施できる。 ⑧歯科衛生診断を実施できる。 ⑨歯科衛生過程における書面化(記録)を実施できる。 ⑩例題について討議できる。
39 40	合同ブラッシング指導準備(プレ実習) ①口腔内写真 ②ブラッシング指導 ③歯科衛生過程	①口腔内写真を評価できる。 ②歯科衛生診断を実施できる。 ③歯科衛生計画立案を実施できる。 ④歯科衛生過程における書面化(記録)を実施できる。
41 42	実技試験(補助清掃器具)	①指定された補助清掃器具を顎模型上で実施できる。 ②指定された補助清掃器具の操作方法を説明できる。 ③指定された補助清掃器具の特徴や留意点を説明できる。
43 44	総合学習(口腔筋機能療法)	①正常な口腔周囲組織の動きを説明できる。 ②咀嚼・嚥下機能を列記できる。 ③筋機能訓練(MFT)について説明できる。 ④歯肉マッサージについて説明できる。 ⑤咀嚼チェックガムについて説明できる。
45 46	合同ブラッシング指導実習	①情報収集を実践できる。 ②歯科保健指導を実践できる。 ③口腔の基礎知識を指導できる。 ④症例発表用のスライドを作成できる。
47	実技試験(口腔内写真撮影)	①カメラの取り扱いを円滑に操作できる。 ②アシスタントワークが円滑にできる。 ③患者役に配慮できる。
48 50	総合学習(セミナー) ①歯ブラシの処方 ②電動歯ブラシ ③歯肉マッサージ	①歯ブラシの「処方」について列記できる。 ②デンタルフロスを操作できる。 ③歯磨剤について説明できる。 ④セルフケアとプロフェッショナルケアについて列記できる。 ⑤電動歯ブラシについて説明できる。 ⑥歯肉マッサージを実施できる。

歯科保健指導（含訪問歯科保健指導）

講 師	生 田 佳 代 中 尾 亜 希 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 （ 8 0 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	歯科保健指導は人々の生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために専門的立場から支援することである。第2学年では、様々な対象者に対応できるよう専門知識にとらわれず情報収集を心がけ基本から応用力を身につけていく。				
学 習 方 法	講義、デモンストレーション、グループディスカッション、実技試験				
成績評価の方法	記述試験（定期試験）をおおよそ80%とし、残り20%は実技試験、課題、レポート、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会（監） 最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科予防処置論、口腔衛生学と重複する内容もあるため、他科目の教科書や資料も参考にすること。 本授業で配付した資料は必ず復習し、次回の授業の準備として活用すること。 また、普段から幅広い知識や情報の収集を心掛け、同時にコミュニケーション能力、接遇作法、話法等も身につけて欲しい。				
参 考 書	①松田裕子（編集）「オーラルヘルスケア事典」-お口の健康を守るために- 学建書院 ②眞木吉信他（監著）「歯科衛生士教育サブテキスト 臨地実習HAND BOOK」 クインテッセンス出版 ③全国歯科衛生士教育協議会（編）「よくわかる 歯科衛生過程」 医歯薬出版 ④尾崎哲則、埴岡隆（編著）「歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1 5 4	歯科衛生過程の進め方	①歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる。 ②歯科衛生過程における構成要素の目的を説明できる。 ③歯科衛生過程における書面化（業務記録）の意義を説明できる。
5	地域歯科保健活動 臨床・臨地実習の効果を高めるために	①地域歯科保健活動のフィールドを説明できる。 ②健康教育の計画立案ができる。 ③健康教育の内容を説明できる。 ④地域歯科保健活動の工夫と留意点を説明できる。
6 5 9	生活習慣の指導 ストレスマネジメント	①口腔健康管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。 ②非感染性疾患（NCDs）の症例に合わせた歯科保健指導ができる。 ③禁煙指導・支援ができる。 ④ストレスマネジメントの指導ができる。
9 5 16	対象別特徴の把握	①ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健行動を説明できる。
17 18	配慮を要する者への歯科衛生介入	①要介護高齢者の特徴を説明できる。 ②障害児者の特徴を説明できる。
19 20	対象別指導（実技含む）	①各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。
21	口腔衛生指導の要点	①口腔の機能的な問題を把握できる。 ②口腔内の観察項目とポイントを列挙できる。 ③画像から得られる情報を説明できる。
22 23	配慮を要する者への歯科衛生介入	①大規模災害被災者の特徴を説明できる。
24 5 32	対象別指導（食生活と生活習慣）	①健康を維持するための栄養情報を説明できる。 ②食品と齲蝕の関連性を説明できる。 ③齲蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。 ④食生活・食習慣の背景を説明できる。 ⑤食品を歯科疾患の関連性を説明できる。 ⑥咀嚼の働きを説明できる。
33 5 36	指導と歯科衛生過程	①情報収集で得られる情報を説明できる。 ②対象者の全体的な健康状態について把握できる。 ③対象者の生活に関する情報を把握できる。 ④口腔内の観察項目とポイントを列挙できる。 ⑤画像から得られる情報を説明できる。
37 5 40	ライフステージ別症例検討	①ライフステージ別の症例について討議できる。

歯科保健指導(含訪問歯科保健指導)

講 師	生 田 佳 代 中 尾 亜 希 子	実施時期 単 位 数	第 3 学年前・後期 1 単位 (40 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	歯科保健指導は人々の生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために専門的立場から支援することである。第3学年では、特に高齢者・有病者への対応を中心に基本から応用力を身につけていく。				
学 習 方 法	講義、デモンストレーション、グループディスカッション、実技(実習)				
成績評価の方法	記述試験(定期試験)をおおよそ80%とし、残り20%は課題、レポート、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監)最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科予防処置論、高齢者歯科学、摂食機能訓練法と重複する内容もあるため、他科目の教科書や資料も参考にする。本授業で配付した資料は必ず復習し、次の授業の準備として活用すること。 また、普段から幅広い知識や情報の収集を心掛け、同時にコミュニケーション能力、接遇作法、話法等も身につけて欲しい。				
参 考 書	①全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 医歯薬出版 ②金子芳洋(編)「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」 医歯薬出版 ③全国歯科衛生士教育協議会(編)「よくわかる 歯科衛生過程」 医歯薬出版 ④尾崎哲則、埴岡隆(編著)「歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	口腔衛生管理と口腔機能管理	①在宅医療制度の概要を理解できる。 ②在宅訪問診療における歯科の役割を理解できる。 ③在宅訪問診療における歯科衛生士の役割を説明できる。
2 3	在宅での口腔衛生管理	①高齢者の精神的・身体的特徴を説明できる。 ②高齢者の口腔衛生管理時の留意点について理解できる。 ③高齢者の口腔衛生管理に使用する器材について列挙できる。
4 5 9	口腔機能管理 口腔衛生管理/口腔機能管理(実習)	①口腔機能管理の流れを説明できる。 ②口腔機能を管理するためのスクリーニングテストについて説明できる。 ③誤嚥時の対応法について説明できる。 ④高齢者の口腔衛生管理に影響する高齢者の特徴について説明できる。 ⑤高齢者の口腔衛生管理の留意点について説明できる。 ⑥口腔機能を管理するためのスクリーニングテストを実施できる。
10 11 12	総合患者実習症例発表会、評価 (口腔保健管理と合同)	①第1, 2回総合患者実習の実施内容を比較できる。 ②実習時の患者の心理を理解できる。 ③継続管理について理解できる。 ④歯科衛生過程を展開できる。 ⑤パワーポイントを使用し症例を説明できる。
13	口腔衛生管理の実践	①チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携のあり方を説明できる。 ②配慮を要する対象者への口腔衛生指導の実践を列挙できる。
14 15 17	症例を用いた高齢者の歯科衛生過程	①要介護高齢者への歯科衛生介入を説明できる。 ②障害児者への歯科衛生介入を説明できる。
18 19 20	大規模災害被災者への支援	①大規模災害時の歯科保健活動を説明できる。

栄養指導

講 師	草 原 津代子	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	ライフステージに応じた食生活指導を行うために、専門的知識を習得する。				
授 業 概 要	栄養の基本知識・食品の知識・国民の健康と栄養の現状・国民健康づくりにおける食生活改善の取り組みなどについて学習します。補足資料として必要に応じてプリントを配布します。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験80%、小テスト10%、課題提出10%の総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新 人体の構造と機能2「栄養と代謝」 医歯薬出版 新食品成分表 FOODS 8訂 (2022年度用) 東京法令出版				
履修上の注意	毎回事前に授業内容のプリントを配布しますので予習をしてプリントに書き込んできてください。 単元ごとに振り返りの確認テストをします。毎回復習をしてください。				
参 考 書	独立行政法人 国立健康・栄養研究所監修「日本人の食事摂取基準(2020年版)の活用」 第一出版 国民健康・栄養調査の現状 第一出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	食生活と栄養	①健康の維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知る。 ②現代人の食物摂取における栄養上の問題点を知る。
2	糖質の栄養的意味 食物繊維の栄養的意味	食品から摂取している糖質及び食物繊維について、それぞれの生体での役割を理解する。
3	タンパク質の栄養的意味	食品から摂取しているタンパク質について、生体での役割を理解する。
4	脂質の栄養的意味	食品から摂取している脂質について、生体での役割を理解する。
5	ビタミンの栄養的意味	ビタミンの種類及び個々の働きについて理解する。
6	無機質の栄養的意味 水の栄養的意味	ミネラルの種類及び個々の働きについて理解する。 水の生体での役割を理解する。
7	栄養素の消化・吸収	栄養素の消化・吸収の基本を知る。 栄養素の相互作用、相互の影響について健康維持との関係を知る。
8	日本人の食事摂取基準	食事摂取基準とは何かを知る。 個人のエネルギー必要量の求め方、摂取の評価方法を知る。 脂肪エネルギーとは何か、なぜ重要視されるのかを知る。 付加運動による増加が求められる理由を知る。
9	国民栄養の健康と栄養の現状 食生活・疾病構造の変化	食生活と健康との関連についてマクロな視点で把握する。
10	国民健康栄養調査結果	日本人の健康と栄養状態の現状を理解する。
11	国民栄養の課題と栄養指導の必要性	健康の維持増進を進めるための栄養指導の必要性について理解する。 食生活・食習慣の背景を説明できる。
12	望ましい食生活 国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み 健康日本21、食育基本法	健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。
13	食事バランスガイドによる自己分析 食品情報を得るための法的整備	栄養状態を把握し問題点を評価できる。 健康を維持するための栄養情報を説明できる。
14	甘味食品 ライフステージ別の栄養と調理	成長期・成人期・高齢期に至るライフステージ別の食生活の特徴を把握する。 各ライフステージ別の食生活指導ができる。 食品とう蝕の関連性を説明できる。
15	食品の成分と分類 食べ物と健康	食品の3つの機能(栄養、嗜好・感覚、生体調節)について、理解を深める。 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。 食品の特性をおいしさ要因、物性・テクスチャーなどから理解する。 摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。

歯科診療補助法

講 師	星 野 菜 緒 東 美 穂	実施時期 単 位 数	第 1 学年前・後期 4 単位 (160 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	専門的な歯科診療の補助に対応するため、必要な知識、技術を身につける。				
授 業 概 要	歯科衛生士の三大業務のひとつである歯科診療補助についてその内容を理解し、患者への配慮をしながら、診療の流れに沿ってスムーズに補助できる手技を身につける。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	記述試験(定期試験)をおおよそ80%とし、残り20%は実技試験、課題、レポート、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 医歯薬出版				
履修上の注意	他教科との関連も含め、幅広い知識が必要となる科目であり、使用する器具や材料も数多いものである。それらを理解・習熟する為に積極的に取り組む姿勢が必要である。				
参 考 書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 「歯科診療補助」 医歯薬出版 他 臨床系教本 竹澤保政(監)、渡辺美里(編) イラストと写真でわかる歯科材料の基礎知識 永末書店				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	【講義】 歯科診療補助の概念	歯科診療補助の定義を列記できる。 歯科診療補助の法的な位置付けを列記できる。
2	【講義】 共同動作の方法	共同動作の概念を述べることができる。 バキュームテクニックの基本を述べることができる。
3	【講義・実習】 歯科診療室の基礎知識	歯科診療室の環境、設備を説明できる。 歯科用ユニットの操作ができる。 器具・器材の洗浄、管理を説明できる。 基本的手指消毒が実施できる。
5 6 10 13	【実習】 バキュームテクニック (口腔内洗浄・切削時バキュームテクニック)	共同動作の概念を列記できる。 3wayシリンジでスプレー操作が実施できる。 バキューム操作が実施できる。
7	【講義】 医療安全と感染予防	医療安全の概念を列記できる。 医療廃棄物の分類・分別を説明できる。 感染予防対策について列記できる。
8 9	【実習】 医療安全と感染予防	基本的な消毒、滅菌の流れを列記できる。 各種消毒、滅菌器具について説明できる。
14 15	【実技試験】 口腔内洗浄	制限時間内に指定した位置で口腔内洗浄が実施できる。 3wayシリンジの基本操作が実施できる。
16 17	【相互実習】 口腔内洗浄 バキュームテクニック	口腔内洗浄が実施できる。 3wayシリンジの基本操作が実施できる。 切削時のバキュームテクニックが実施できる。
18	【講義】 歯科材料の基礎知識Ⅰ (アルジネート印象材・歯科用石膏・ 寒天印象材・ゴム質印象材・ワックス)	各種歯科材料(印象材・模型材・ワックス)の基本的性質を列記できる。 印象採得の目的を説明できる。 各種歯科材料用を用途に応じて分類できる。
19 20	【実習】 歯科材料の取り扱い (アルジネート印象材) (ユーティリティワックス) (パラフィンワックス)	アルジネート印象材(ペースト・粉末)の練和ができる。 アルジネート印象材で全顎印象採得ができる。 ユーティリティワックスでトレー辺縁の修正ができる。 パラフィンワックスを用いた咬合印象採得ができる。
21 22	【講義・実習】 模型材の取り扱い	歯科用石膏の所要性質を列記できる。 普通石膏の練和操作が実施できる。 歯科用石膏の混水比を説明できる。 4倍大歯冠の作製ができる。
23 24	【実習】 歯科材料の取り扱い (アルジネート印象採得～石膏模型作製)	歯科用石膏の所要性質を列記できる。 アルジネート印象材を用いた全顎印象採得が実施できる。 歯列模型を作製できる。
25 26	【実習】 スタディモデル作製①(ゴム枠)	スタディモデルの目的を列記できる。 ゴム枠を用いたスタディモデルの作製ができる。 普通石膏の練和ができる。
27 28	【実習】 アルジネート印象採得(水平位)	アルジネート印象材の所要性質を述べることができる。 水平位で概形印象採得が実施できる。 歯列模型を作製できる。

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
29 30	【講義・実習】 寒天アルジネート連合印象採得	寒天印象材の特徴を列記できる。 向きを考えた器具・器材の受け渡しができる。 マネキンで精密印象採得が実施できる。
31 32	【講義・実習】 歯科材料の基礎知識Ⅱ (ゴム質印象材・酸化亜鉛ユージノール 印象材・モデリングコンパウンド)	各種印象材(シリコンゴム・酸化亜鉛ユージノール・モデリングコンパウンド)の性質を列記できる。 マネキンを用いてシリコンゴム質印象材で精密印象採得が実施できる。 向きを考えた器具・器材の受け渡しができる。 スパチュラの練和操作が実施できる。
33 34	【講義・実習】 個人トレー作製	個人トレーの目的を理解できる。 片顎の個人トレーを作製できる。
35 36 37 38 39 40	【相互実習】 総合実習 (切削時バキューム～石膏模型作製) ※寒天アルジネート連合印象採得	共同動作の概念を述べることができる。 歯科治療の手順を理解できる。
41 42	【相互実習】 アルジネート印象採得	口腔内でアルジネート印象採得が実施できる。 制限時間内に全顎印象採得ができる。
43 44	【実習】 アルジネート印象採得(座位)	座位でのアルジネート印象採得が実施できる。 制限時間内に全顎印象採得ができる。
45	【講義】 歯科材料の基礎知識Ⅲ (仮封材の取り扱い)	仮封材の所要性質、種類、目的を列記できる。 患者説明ができる。
46 47	【実習】 仮封材の取り扱い	単一仮封および二重仮封の操作ができる。
48 49	【相互実習】 アルジネート印象採得(座位) 歯列模型作製	座位でのアルジネート印象採得ができる。硬質石膏を用いた歯列模型を作製できる。 制限時間内に全顎印象採得ができる。
50 51	【実習】 スタディモデル作製②(台削成)	スタディモデルの作製手順を説明できる。スタディモデルの台付けができる。 普通石膏の練和ができる。安全に配慮できる。
52 53	【実習】 仮封材の取り扱い(復習)	単一仮封および二重仮封の操作が円滑にできる。
54 55	【実技試験(相互実習)】 アルジネート印象採得	制限時間内に口腔内でアルジネート印象採得が実施できる。 基本的な練和・反転操作が実施できる。
56 57	【確認テスト】 仮封材の取り扱い	指示した窩洞に応じた仮封操作ができる。単一仮封・二重仮封が実施できる。 指示した仮封材を選択できる。
58 59	【実習】 石膏棒・TeC用模型作製	歯科用石膏(普通・超硬質)の取り扱いができる。 石膏棒・TeC用模型を時間内に作製できる。
60 61 62 63 64	【講義・実習】 保存治療時の診療補助① (ラバーダム防湿:一歯露出)	ラバーダム防湿の目的、有翼・無翼型クランプの術式を説明できる。 使用器材の名称、用途を述べることができる。 目標時間内にラバーダム防湿が実施できる。
62	【講義・実習】 保存治療時の診療補助② (歯内療法:綿栓作製)	綿栓の使用目的を列記できる。 指定した大きさの綿栓を作製できる。
65 66	【相互実習】 ラバーダム防湿	ラバーダム防湿の目的を述べることができる。 安全に配慮したラバーダム防湿が実施できる。
67 68	【講義・実習】 保存治療時の診療補助③ (歯肉圧排・歯間分離・隔壁法)	器材の種類と用途、操作法を説明できる。 各処置に応じた器具の選択、取り扱いができる。
69 70	【相互実習】 各種印象材の印象採得復習	各種印象材の印象採得手順を踏まえて、口腔内で適切な印象採得ができる。 向きを考えた器具・機材の受け渡しが実施できる。
71 72	【実習】 総合実習(歯肉包帯) (歯肉圧排～精密印象採得)	歯肉圧排後の精密印象採得が実施できる。 精密印象体を評価し、歯肉圧排の目的について再度理解できる。 歯肉包帯材の練和操作が実施できる。
73 74 75 76 77 78	【講義・実習】 補綴治療時の診療補助① (TeC作製実習)	暫間修復材の目的を述べることができる。歯牙形態の特徴を述べることができる。 暫間修復材の取り扱いが実施できる。暫間被覆冠の作製方法を説明できる。
79 80	【講義・実習】 補綴治療時の診療補助② (合着・仮着材)	合着・接着・仮着の目的、所要性質について説明できる。 暫間被覆冠の仮着・撤去が実施できる。 各種セメントの練和ができる。

歯科診療補助法

講 師	星 野 菜 緒 東 美 穂	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 （80 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	専門的な歯科診療の補助に対応するため、必要な知識、技術を身につける				
授 業 概 要	歯科衛生士の三大業務のひとつである歯科診療補助についてその内容を理解し、患者への配慮をしながら、診療の流れに沿ってスムーズに補助できる手技を身につける。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	前期は定期試験をおおよそ80%、残り20%は課題、授業態度、出席状況等を総合し評価する。 後期は定期試験をおおよそ50%、40%は実技試験、10%は課題、授業態度、出席状況を総合し評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新「歯科診療補助論」第2版 医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会(編) 最新「歯科材料」「歯科機器」医歯薬出版 その他臨床系教本				
履修上の注意	他教科との関連も含め、幅広い知識が必要となる科目であり、使用する器具や材料も数多いものである。 それらを理解・習熟する為に積極的に取り組む姿勢が必要である。				
参 考 書	江澤庸博著 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	医療安全と感染予防(講義)	標準予防策を述べられる。 感染リスクとその対策について説明できる。
2 3	医療安全と感染予防(実習)	感染予防策について討議できる。 バリアテクニックを実施できる。
4 5 8 9	暫間被覆冠(単冠)(ブリッジ)	歯牙形態を顎模型と対比できる。 指導や助言を行動に移すことができる。 必要な材料、使用器具を準備できる。
6 7	歯科材料復習(セメント・仮封材)	適切なセメントを選択できる。 適切な器材を選択できる。 適切な填入操作ができる。
10 11	歯科材料(各種セメント・床用材料)	各種セメントの用途を説明できる。 適切な器具を準備する。
12 13	ラバーダム防湿(基礎実習)	手順を述べることができる。 使用器具と用途を述べることができる。
14	主な事故とその対策 有病者への対応	全身疾患とその特徴を説明することができる。 口腔に現れる特徴と診療での注意点を説明できる。 偶発事故について対応法を説明できる。
15 16	各治療時の診療補助(保存分野①)	術式を説明できる。 必要な器具を準備できる。 マトリックスバンドによる隔壁を行うことができる。
17 18	ラバーダム防湿(相互実習)	患者にラバーダム防湿の説明ができる。 適切な器具の取り扱いができる。
19 20	印象採得(復習)	各種印象材を使い印象採得することができる 連合印象の補助ができる
21 22	各治療時の診療補助(復習)	術式を説明できる。 歯科器材の円滑な取り扱いができる。
23 24	暫間被覆冠(ブリッジ)	適切な量を準備できる。 マージン部分を記すことができる。
25 26	各治療時の診療補助(保存分野③)	術式を説明できる。 必要な器具を準備できる。
27 28	各治療時の診療補助(歯周治療分野)	術式を説明できる。 適切な器具の受け渡しができる。
29 30	暫間被覆冠(ブリッジ)セミナー	歯牙形態を顎模型と対比できる。 指導や助言を行動に移すことができる。 必要な材料、使用器具を準備できる。
31 32	各治療時の診療補助(補綴分野)	術式を説明できる。 必要な器具を準備できる。 適切な器具の受け渡しができる。
33 34	各治療時の診療補助(歯内療法分野)	術式を説明できる。 必要な器具の特徴、用途を理解する。
35 36	各治療時の診療補助(矯正歯科分野)	術式を説明できる。 必要な器具の特徴、用途を理解する。
37 40	まとめ(復習)	歯科器材の円滑な取り扱いができる。 臨床実習に向け、手技を確実なものにできる。

臨床検査・救急蘇生法

講 師	岡 安 一 郎	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生業務を行うために必要な臨床検査、全身管理、局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔および救急蘇生法を理解する。				
授 業 概 要	歯科医療における臨床検査、歯科麻酔および患者管理について学ぶ。 なお、歯科麻酔の一領域であるペインクリニックについても、舌痛症や顎関節症、非菌原性歯痛や頭痛を例に、医療面接、診察、検査、診断、管理の一連の流れを紹介する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	期末試験の結果を中心に、授業への参加度を考慮して評価を算出する。 筆記試験90%、授業への参加度10%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「臨床検査」 医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」 医歯薬出版				
履修上の注意	教科書に基づいて講義を進めていきますので、教科書を持参下さい。				
参 考 書	1) 食文化と歯 石岡 靖 著 口腔保健協会 2) あきらめないで！口から食べること 角町正勝 著 松風 3) 知ると得する歯科麻酔—ようこそ！ 歯科麻酔の世界へ— 大井久美子 著 口腔保健協会				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	臨床検査	臨床検査の必要性について説明できる。
2	生体検査① —体温、脈拍、血圧—	バイタルサインの測定ができる。
3	生体検査② —心機能、肺機能、筋電図、脳波、 血中酸素濃度—	生体検査(生理機能検査)を説明できる。
4	検体検査① —血液 1—	血液検査、血液凝固・線溶系検査、生化学検査を説明できる。
5	検体検査② —血液 2—	免疫・血清検査、血液型検査、赤血球沈降速度検査を説明できる。
6	検体検査③ —感染症(細菌)、病理—	感染症(細菌)検査、病理検査を説明できる。
7	口腔領域の臨床検査 —口臭、味覚、歯科金属アレルギー、 舌、口腔粘膜、唾液等—	口腔領域の臨床検査を説明できる。
8	主な疾患①	主な全身疾患について説明できる。
9	主な疾患②	主な全身疾患に対する歯科治療上の注意点について説明できる。
10	臨床検査まとめ	検査の目的を説明できる。
11	歯科麻酔	歯科治療における歯科麻酔の役割を説明できる。
12	局所麻酔	局所麻酔について説明できる。
13	精神鎮静法・全身麻酔	精神鎮静法と全身麻酔について説明できる。
14	救急蘇生法	一次救命処置について説明できる。
15	歯科麻酔まとめ	麻酔の目的を説明できる。

医療事務

講 師	東 義 隆 星 野 菜 緒	実施時期 単 位 数	第 3 学年前期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	医療に関する専門的な知識と理解を構築し、さらなるスキルアップを目指す。				
授 業 概 要	(東)医療保険制度の概要、特に健康保険を中心に解説する。歯科保険医療と歯科衛生士の関わりについて理解し、保険診療の原則について学び歯科衛生士業務と算定ルールについての基礎を習得する。 (星野)仕事にやりがいを持ち、常に患者の立場になって物事を考える姿勢と歯科衛生士として当然知っておくべき対応や作法について学ぶ。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験の成績および授業態度 (各講師50%ずつ評価し、合算)				
教 科 書	毎回の授業にて資料を配布				
履修上の注意	(東)医療人として医療保険制度の現状を正しく理解してほしい。診療報酬改定において、歯科衛生士の役割の変化・歴史について触れ、これからの歯科界について興味を持って取り組んでもらいたい。 (星野)患者の信頼関係を成立させるためにどう行動すればよいかを自らの行動を思い起こし、授業に臨んでほしい。				
参 考 書	厚生労働省 日本医師会 日本歯科医師会 日本歯科衛生士会の資料等 カルテ記載要領 (長崎市歯科医師会) 歯科診療報酬入門 全国歯科衛生士教育協議会 (編) 「受付対応・事務」 医歯薬出版 歯科医院で働く女性のためのポケットブック デンタルダイヤモンド社				

授業計画

[1～5: 星野菜緒、6～10: 東 義隆]

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	医療従事者としての心構え 対応の基礎(マナー)	働く理由を述べる。 歯科医院の基本業務について列記する。 社会人として必要とされる資質を列記する。
2	患者対応の基本	実習での自分を振り返る。 社会での自分の立場を考える。 尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを説明する。 良い印象を与える対応を考える。
3	状況別対応	キャンセル、急患、来客への対応を理解する。
4	文書管理	取り扱う文書について理解する。 リコール制について理解する。
5	情報共有	院内での情報の取り扱いについて学ぶ。
6	医療保険制度	医療保険制度について分類する。
7	歯科衛生士と歯科診療報酬	歯科衛生士と歯科診療報酬のかかわりについて理解する。
8	歯科保険の原則と解釈	歯科保険診療の原則と解釈・歯科点数表について理解する。
9	歯科衛生士業務と算定ルール	歯科衛生士に関係が深い臨床事例を通して幅広く理解を深め、基礎を習得する。
10	歯科診療明細書について まとめ	レセプトについて理解し、レセプト電算処理システムについて理解する。 これまでの授業項目についてまとめる。

歯科材料

講 師	阿 部 薫 明	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	—
一般目標 (GIO)	歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。				
授 業 概 要	・成形修復材の種類と基本的性質を説明できる。 ・コンポジットレジンの特徴を説明できる。 ・成形修復材の歯質との接着を説明できる。				
学 習 方 法	講義、DVD視聴、示説、宿題(テーマ別問題)				
成績評価の方法	定期試験結果に授業態度(積極的に授業に参加すること)を加味する。 筆記試験80%、小テスト、出席状況20%				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 医歯薬出版				
履修上の注意	毎回、授業内容を復習することを心がけること。 初めて聞く専門用語が多いので、徐々に慣れていく必要がある。				
参 考 書	・鈴木一臣他「スタンダード歯科理工学」 学建書院 ・山根正次監修「歯科材料学事典」 学建書院				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯科材料の基礎知識	・金属材料、高分子材料、セラミック材料の特徴を説明できる。 ・生体材料の基本的性質を説明できる。 ・歯科材料の素材や所要性質を説明できる。
2	印象材①	・印象採得の目的を説明できる。 ・印象材の種類と基本的性質を説明できる。
3	印象材②	・弾性印象材の所要性質を説明できる。 ・印象材の変形を説明できる。
4	模型用材料①	・模型用材料の種類と基本的性質を説明できる。
5	模型用材料②	・石膏の所要性質と取り扱いを説明できる。 ・石膏の理工学的性質を説明できる。
6	成形修復材	・成形修復材の種類と基本的性質を説明できる。 ・コンポジットレジンの特徴を説明できる。 ・成形修復材の歯質との接着を説明できる。
7	合着材と接着材①	・合着材と接着材の種類と基本的性質を説明できる。 ・歯科用セメントの所要性質を説明できる。
8	合着材と接着材②、ワックス	・歯科用セメントの理工学的性質を説明できる。 ・ワックスの種類と用途を説明できる。
9	金属材料、セラミック材料、技工技術(鋳造、重合、焼成、ろう付け)	・金属材料とセラミック材料の種類と基本的性質を説明できる。 ・歯科技工技術の種類とその目的を説明できる。
10	暫間修復材と仮着セメント	・暫間修復材と仮着セメントの種類と基本的性質を説明できる。

感染予防学

講 師	田 中 慎 彦	実施時期 単 位 数	第 2 学年後期 1 単位 （15 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	専門的な歯科診療の補助における医療安全管理と消毒・滅菌に必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	すべての臨床業務のベースにある「感染予防」についてその概念・実際の取り組み法について理解し、安全な医療を提供できる知識と能力を取得することを目的とする。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	定期試験90%、小テスト、出席状況10%による総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新「歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版				
履修上の注意	医療現場で基礎となる非常に重要な項目です。 教科書と参考文献をしっかりと読み理解を深めてください。				
参 考 書	ICHG研究会(編) 新歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄 医歯薬出版 佐藤田鶴子(監) 最新 歯科医療における院内感染対策 CDCガイドライン 永末書店 日本歯科医学会(監) エビデンスに基づく一般歯科医療における院内感染対策 永末書店				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	医療安全	医療安全の概念とその対策を説明できる。
2	感染予防対策の基本と実際	スタンダードプレコーションを理解し、具体的対策を説明できる。
3	治療用器具の滅菌・消毒・洗浄の基本	滅菌・消毒・洗浄の定義が説明できる。
4	治療用器具の滅菌・消毒・洗浄の実際	滅菌・消毒・洗浄の方法について説明、消毒薬、各種滅菌機器、器具の準備、操作、取り扱い管理ができる。
5	廃棄物の処理	医療廃棄物の分類と分別を説明できる。
6	医療従事者の感染予防対策	感染事故の予防法や事故時の対応を判断することができる。
7	ガウンテクニックと手洗い実習	手指消毒やガウン、グローブの装着・脱着が実施できる。
8	まとめ、小テスト	感染予防学についての理解度を評価することができる。

臨床・臨地実習

講 師	(実習先一覧参照)	実施時期 単 位 数	第 2, 3 学 年 前・後期 20単位 (900時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	1. 歯科衛生に関する臨床技術を修得する 2. 歯科および歯科以外の医療関係職種とチームワークがとれる能力を養う 3. 医療従事者として高い倫理観、責任感を持ち、判断や行動ができる 4. あらゆる年齢層の患者との良好なコミュニケーション能力を養う				
授 業 概 要	歯科保健医療サービスを行っている臨床の場において、歯科衛生士業務に必要な歯科予防処置、 歯科保健指導、歯科診療補助等の基本技術の学びを深め、実体験を通して専門的能力を修得する。 さらに、医療従事者としての基本姿勢や倫理規範を学び、コミュニケーション能力をも高める。				
学 習 方 法	実習				
成績評価の方法	ケース取得状況50%、出席状況、態度、レポート課題等の個人評価50%を総合して評価する。				
教 科 書					
履修上の注意	・体調等を整え、自己管理をしっかり行い実習に臨むこと ・感染予防、事故防止に努めること ・身だしなみを整え、スタッフの方々や患者さんに対しても礼儀正しいコミュニケーションを心がけること ・医療従事者としての自覚を持ち「守秘義務」を守ること				
参 考 書	臨床実習の心得 臨床実習手帳(Ⅰ期、Ⅱ・Ⅲ期) その他配付資料				

実習計画

授業項目	到達目標 (SB0s)
臨床実習の心得および臨床実習手帳を参照	

授業計画

No.	主な実習先	実 習 時 期
1	歯科診療所	2年次:11月下旬～2月下旬, 3年次:5月中旬～11月初旬
2	長崎大学病院	2年次:11月下旬～2月下旬, 3年次:5月下旬～10月中旬
3	長崎県口腔保健センター	2年次:11月下旬～2月下旬
4	市町村保健センター	2年次:8月
5	長崎県歯科衛生士会	3年次:5～10月
6	保育園	2年次:2月
7	小学校	2年次:6月
8	中学校	3年次:6月
9	特別支援学校	2年次:9月・1月, 3年次:6月
10	高齢者施設	3年次:11月

医療情報処理技術 I

講 師	田 中 理恵子	実施時期 単 位 数	第 1 学年前・後期 1 単位 （1 5 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	情報の授受に効果的なコンピュータの利用法を理解し、効率よく業務を遂行するために基本的知識・技能を習得する。				
授 業 概 要	Word・Excelの基本的な知識・スキルを身につける。 保存方法などWindowsの基本操作を身につける。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	実技試験100%				
教 科 書	情報利活用 ワープロ Word 2016対応（日経BP社） 情報利活用 表計算 Excel 2016対応（日経BP社）				
履修上の注意	入力が速く正確にできるように、タッチタイピングを早急に習得して欲しい。 スムーズに操作ができるように、パソコンに触れる時間をなるべくとるようにする。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	タイピング練習、Windowsの基本操作 Word: Wordの概要・文書の作成と管理	フォルダ作成・ファイルの保存などのWindowsの基本操作ができる。 文書の作成・保存ができる。
2	Word: 文書の編集	いろいろな書式の設定ができ、体裁の整った文書の編集ができる。
3	Word: 表の作成	表の作成・編集ができる。
4	Word: ビジュアルな文書の作成 差し込み印刷	文書に画像・ページ罫線等を挿入できる。 複数の宛名に送付する文書や宛名ラベルを作成できる。
5	Excel: Excelの概要、表とグラフの作成	表計算ソフトの基本的な操作ができる。 目的に応じたグラフの作成・編集ができる。
6	Excel: ページレイアウト設定	印刷タイトル等のページレイアウトの設定ができる。 USBメモリ等に保存ができる。
7	Excel: 関数の利用	数式・関数を活用できる。
8	実技試験 (Word, Excel) タイピング練習	ソフトウェアを用いて、課題をUSBメモリに保存ができる。

医療情報処理技術Ⅱ

講 師	田 中 理恵子	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 1 単位 (15 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	必要な情報・意思の伝達を行い、集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションの基本的知識・技能・態度を習得する。				
授 業 概 要	USBメモリ等に確実に保存ができるようにする。 Excelでデータの分析と基本的操作のまとめを行い、PowerPointの基礎知識・スキルを身につける。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	実技試験100%				
教 科 書	情報利活用 表計算 Excel 2016対応 (日経BP社) 今すぐ使えるかんたんPowerPoint 2016 (技術評論社)				
履修上の注意	習得した知識とスキルをレポート・発表等に積極的に活用して欲しい。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	Excel:ピボットテーブル・ピボットグラフ Windowsの基本操作の復習	ピボットテーブルを使用して、データの分析ができる。 USBメモリ等への保存やファイル名の変更ができる。
2	Excel:まとめ	条件に応じて、関数、表示形式、表、グラフなどを利用することができる。
3	PowerPoint:プレゼンテーションの概要、 基本操作、テーマ、スライドマスタ設定	プレゼンテーションを行う上で重要なことをわかり、プレゼンテーションソフトの構造が理解できる。
4	PowerPoint:SmartArt、図形、表、グラフ、画像の挿入と編集	図解化した視覚に訴えるスライドを作成できる。
5	PowerPoint:画面切り替え、スライドショー、 アニメーション効果	アニメーション効果等を活用できる。
6	PowerPoint:動画・音楽の挿入、ビデオ作成 配布資料作成など	効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。
7	PowerPoint:まとめ	プレゼンテーションに必要な基本的なスライド作成ができる。
8	実技試験 (Excel、PowerPoint)	課題をUSBメモリに保存ができる。

摂食機能訓練法

講 師	藤 宣 好	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	摂食・嚥下障害の概要と摂食機能訓練法の基礎を教授する。リハビリテーションの意義、目的を充分理解し、臨床の場で、生かせる技術と知識を修得していく。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	定期試験、レポート、出席状況等の総合評価 筆記試験70% レポート、研修会出席状況30%				
教 科 書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」第2版 医歯薬出版				
履修上の注意	現在、「口腔ケア」として脚光を浴びている科目です。口腔領域の疾病に携わる医療従事者として、口腔領域の障害についても関わって行く必要があります。授業内容の予習、復習をして授業に臨み、総括的な理解をしてほしい。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	オリエンテーション 歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション	摂食嚥下とは何かの理解を高める。
2	リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション	リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーションを理解する。
3	摂食嚥下障害者への口腔管理と制度と理解	摂食嚥下障害者への口腔管理と制度を理解する。
4	摂食嚥下機能のメカニズム 摂食嚥下に関わる構造(解剖)	摂食嚥下機能のメカニズム(解剖)を理解する。
5	摂食嚥下機能のメカニズム 摂食嚥下に関わる機能(生理)	摂食嚥下機能のメカニズム(生理)を理解する。
6	咬合および咀嚼機能の管理と評価	咬合および咀嚼機能の管理と評価を理解する。
7	リスクマネジメント	リスクマネジメントを理解する。
8	病態別摂食嚥下障害 (成人期・老年期の疾患)	病態別摂食嚥下障害(成人期・老年期の疾患)を理解する。
9	摂食嚥下の評価 (成人期・精密検査)	摂食嚥下の評価(成人期・精密検査)を理解する。
10	摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理	摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理を理解する。
11	前半のおさらい	前半のおさらい
12	摂食嚥下訓練(間接訓練)	摂食嚥下訓練(間接訓練)を理解する。
13	摂食嚥下訓練(直接訓練)	摂食嚥下訓練(直接訓練)を理解する。
14 15	摂食嚥下訓練実習	摂食嚥下訓練実習

リハビリテーション概論

講 師	塩 塚 順	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生士として、歯科診療科だけでなく訪問歯科診療時に高齢者や各疾患患者理解との身体補助方法を学ぶことにより、安全に歯科医師の補助並びに歯科衛生士業務が行えること。また、リハビリテーション科での歯科衛生士業務に就く場合においても同様の業務ができるようになる。				
授 業 概 要	リハビリテーション医学は、保健医学(第1相)、予防医学(第2相)、治療医学(第3相)と並んで第4相の医学と呼ばれる。リハビリテーションの歴史や障害発生から医学的リハビリテーション、社会的リハビリテーションに至るまでの内容を体系立てて理解する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	筆記試験100%				
教 科 書	「リハビリテーション概論 医学生・コメディカルのための手引書」 第4版 永井書店				
履修上の注意	高齢者、障害者の在宅生活支援を行う上で、身体機能、障害像を理解することで、口腔嚥下リハビリテーションの必要性(重要性)を学ぶことが大切であることを理解してほしい。				
参 考 書	適宜紹介				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	リハビリテーションの歴史	リハビリテーションの歴史を理解し、定義を説明できる。
2	リハビリテーションの理念 障害論、3つの障害(機能的、能力的、社会的不利)	ICIDH, ICFの定義や概念を説明できる。
3	チーム医療としてのリハビリテーション 職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション	リハビリテーションにおける医学的スタッフ・社会的スタッフの説明ができる。 チームとして歯科衛生士の役割を理解できる。職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、教育的リハビリテーションを説明できる。
4	リハビリテーションにかかわる疾患1	脳血管障害の病態を理解し、障害像を説明できる。
5	リハビリテーションにかかわる疾患2	整形外科(運動器)疾患を理解し、障害像を説明できる。
6	リハビリテーションにかかわる疾患3	内部障害(心疾患・呼吸器・代謝)を理解し、障害像を説明できる。
7	認知症や高齢者の特性	認知症の理解し対応を説明できる。高齢者のロコモティブシンドローム、フレイルを説明できる。
8	福祉用具と住宅改修	福祉用具各種を理解し、使用方法等を説明できる。住宅改修の理解と方法を説明できる。
9	転倒予防、地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概念を理解し説明できる。高齢者の転倒予防事業を説明できる。
10	実技 (歩行の介助方法、車椅子の使用法、寝たきり患者の介助方法等)	高齢者・障害者の介助方法(寝返り、立ち上がり、移乗方法、歩行介助等)を理解し、実践できる。

隣接医学

講 師	三 島 岳	実施時期 単 位 数	第 3 学年前期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	日常の歯科診療の中で、様々な全身疾患を持つ患者をはじめ高齢者、妊産婦、障害を持った患者等へ専門知識に基づく対応ができる歯科衛生士を育成する。				
授 業 概 要	全身疾患と口腔領域の関連を理解するために、歯科診療に隣接した基礎的医学知識を教授する。これにより、多様化する歯科医療に対し、口腔領域のみならず医科診療と連携したより高度な医療のできる歯科衛生士を育成する。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験(筆記試験80%)、小テスト、出席状況(20%)の総合評価				
教 科 書	橋本賢二・増本一真編著 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック 医歯薬出版				
履修上の注意	様々な疾患に罹患している患者さんを見る上で必要な基礎的医学知識を習得する科目です。臨床に必要な知識を多く含むため、予習・復習をして授業に臨み、口腔領域の疾患と全身疾患を総合的に理解してもらいたい。				
参 考 書	水野嘉夫 著 内科学エッセンス「歯科臨床医のための内科学」 一世出版 白井洸 著 「歯科医の内科学」 医歯薬出版 深谷昌彦 他著 「図解歯科診療と患者のからだ」 医歯薬出版 など適宜紹介				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1 2	歯科の立場からみた隣接医学. 総論	全身疾患、生活習慣病について総論的な理解を深める。
3 4	さまざまな疾患と歯科治療における 注意点① (循環器系疾患)	心疾患・不整脈、高血圧・低血圧等の疾患に対する理解を深める。
5 6	さまざまな疾患と歯科治療における 注意点② (呼吸器系疾患)	肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、結核、睡眠時無呼吸症候群等の疾患に対する理解を深める
7 8	さまざまな疾患と歯科治療における 注意点③ (内分泌系および消化器系疾患,感染症)	糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺疾患、胃・十二指腸、肝臓等の疾患、感染症に対する理解を深める。
9 10	さまざまな疾患と歯科治療における 注意点④ (悪性腫瘍,神経疾患、精神疾患,その他)	がん、脳血管障害、てんかん、認知症、パーキンソン病、ALS、心身症、神経症、うつ病、統合失調症、発達障害等の疾患に対する理解を深める。
11 12	歯科治療時に注意を要する薬の知識	様々な種類の多様化する内服薬についての理解を深める。
13	各種モニターとバイタルサインのとり方	各種モニター、バイタルサインのとり方を理解する。
14 15	急変時の対応	急変時に落ち着いて対応するために必要な基礎知識を理解する。

看護学概論

講 師	小 川 香 織 熊 理 美	実施時期 単 位 数	第 2 学年前期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	看護の基本的な概念、看護の基本となるものを学び、専門性に応用できる。				
授 業 概 要	看護の概念と基本的看護技術を教授する。これにより医療人として歯科衛生士の担う役割と医療の中の看護の必要性を理解させる。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	定期試験(90%)、出席状況(10%)の総合評価				
教 科 書	全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会(編) 「歯科衛生士のための看護学大意」第4版 医歯薬出版				
履修上の注意	高齢化社会が加速化し複雑な合併症を持った患者が増加している。一方で健康に対する意識が深まり、口腔ケアに対する意識も高まっている。そんな中、歯科衛生士の果たす役割も大きい。看護の基本的な概念、看護の基本となるものを学ぶことで、患者との接し方、観察能力を身につけ、専門性に応用できるようになってほしい。				
参 考 書	国立大学歯学部看護部長会会議(編) 歯科看護ハンドブック				

授業計画

[1. 3. 4. 7. 9 : 小川香織 2. 5. 6. 8. 10 : 熊 理美]

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	病院における歯科衛生士の役割	歯科衛生士の活動の場としての診療所、病院の機能について理解し、医療チームの中の歯科衛生士の役割について考える。
2	看護の概念	看護の果たす役割や機能を理解する。
3 4	3:看護技術1 4:看護技術2	3:バイタルサインの機能の正常と異常を理解する。 4:バイタルサイン測定を迅速かつ的確に行う手技を身につける。
5 6	5:看護技術3 6:看護実務1	5:コミュニケーションの基本的な知識や患者の特性に応じた適切な対応や援助について理解する。 患者の安全・安楽を保つための電法や薬物の種類、正しい与薬方法について理解する 6:口腔外科における基本的看護の特徴を理解し、外来・入院患者に対して適切な援助、診療介助ができ、全身状態の観察、対応などを経過に沿って記録する。
7	看護実務2	安全で安心な医療が提供できるように、患者の全身状態の把握や観察を確実に行うことができる。
8	看護実務3	口腔ケアの目的・基本姿勢を理解し、患者に実践できる能力を身につける。 患者の全身状態を把握し、起こりうる危険を予知して緊急時に迅速に適切な対応ができる。
9	看護実務4・5	洗浄・消毒・滅菌の定義と基本的な洗浄・滅菌法を理解し、正しい取り扱いができる。 感染対策として、標準予防策を理解し現場で実践できる。
10	地域医療・関連法	超高齢化社会の到来の状況、高齢者に対する制度等を理解できる。 在宅医療の必要性やチーム医療の連携について理解できる。 歯科衛生士として働くにあたって関係する制度について理解できる。

介護技術

講 師	塩 塚 まゆみ	実施時期 単 位 数	第 3 学年前期 2 単位 （30 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	介護を必要とする一人ひとりの意向や生き方などの個性を理解することが大切であり、尊厳を守り自立に向けた介護を学ぶ。自立した日常生活を送るうえで必要とされる移動・食事などに関する基礎知識と生活援助技術について学ぶ。				
授 業 概 要	高齢者や障害者及び訪問治療を行う在宅患者に対応するときの身体的・精神的特徴の理解と介助技術を習得する				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	定期試験100%				
教 科 書	2022年版みんなが欲しかった！介護福祉士の教科書 TAC株式会社 出版事業部				
履修上の注意	遅刻・欠席をしないこと。無断欠席者の成績評価はしない。				
参 考 書	なるほど介護保険～わかりやすい利用の手引き～長崎市				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	介護概論	尊厳の保持、自立と自律の支援、ノーマライゼーションの理念、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する
2	介護概論	認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴、認知症の人とのかわり・支援の基本を理解する
3	介護の基本1	生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解する。居住環境の整備、介護技術の基本(整容・口腔ケア・衣服の着脱)を習得する
4	介護の基本2	介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得する
5	介護保険制度と歯科の役割1	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、専門職の役割等を理解する
6	介護保険制度と歯科の役割2	個別ケア、ICF、リハビリテーション等の考え方を踏まえ尊厳の保持、自立に向けた介護の展開と介護従事者の職業倫理を理解する
7	コミュニケーション	介護場面での利用者・家族とのコミュニケーション、また介護におけるチームでの情報の共有化の意義を理解する
8	基本介護技術(体位・姿勢交換・歩行)1	ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解する
9	基本介護技術(体位・姿勢交換・歩行)2	人体の構造と機能を理解する
10	基本介護技術(食事)1	利用者の心身の状況に応じた支援方法を習得する
11	基本介護技術(食事)2	からだをつくる栄養素と水分量と食べるしくみについて理解する
12 13	基本介護技術(車椅子の移乗・移動)	車椅子の各部位の名称と点検方法、および介助時の留意点を習得する
14	基本介護技術(緊急時対応法)	発達の定義、発達段階・発達課題、老年期の心理的に課題とその支援の留意点について理解する
15	基本介護技術(緊急時対応法)	緊急時の対応(救急蘇生方法)を習得する

コミュニケーション学 英会話

講 師	星 野 夢 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	—
一般目標 (GIO)	歯科英語で学んだ基礎を生かし、文章を組み立て、話す能力を身につけさせる。				
授 業 概 要	習得した単語・構文を用い、相手との意思疎通ができるようにする。 例文の会話を十分に理解し、与えられた状況に応じて会話ができるようにする。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験65%、復習問題、提出物20%、授業態度15%の総合評価				
教 科 書	プリント配付				
履修上の注意	歯科医療での日常的な会話を積極的に暗記・反復し、身につけて欲しい。				
参 考 書	Thomas R. Ward 著 Part 1 「英語で患者と話そう」 Part 2 「英語が話せる 歯科衛生士」 Part 4 「英語が話せる 歯科衛生士続編」 クインテッセンス出版 その他適宜紹介				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1 5 3	与えられた状況での対話文の作成・発表	自分の身の廻りのことから言いたい事を選別し、英語で述べることができる。 相手と協同で対話文を作り、発表できる質疑応答ができる。
4 5 8	診療所での英会話の練習 予約の取り方、患者への挨拶、電話での対応、口腔衛生指導、子どもの歯の手入れに関する親への指導	実際の立場を想定し、必要に応じた英語を使用し、説明及び会話ができる。 基本的な電話での対応ができる。 適語を使用し的確な説明、指導ができる。
9 10	定期試験に対する総合復習及び練習問題	今まで学んだことで、得意な箇所を暗記して発表できる。 今まで学んだことを応用して、二人で対話文を作成し、発表できる。 会話文に対して、質疑応答ができる。

コミュニケーション学 手話

講 師	原 田 育 子 松 尾 律 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができることを目指す。				
授 業 概 要	手話は「手や身体・表情」で表し、「目」で見て理解することである。外見からみて分かりにくい聴覚障害者のことを理解し、歯科医院での聴覚障害者への対応について学ぶ。手話で自己紹介や簡単な会話ができるように習得する。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	授業の目的とねらいが理解出来ているか、手話を読み取れるかのコミュニケーションの基本を判断して、以下のように総合的に評価する。学習態度・手話読み取り(40点) 筆記試験(30点) 手話表現(30点)				
教 科 書	「聴さんと学ぼう！」一般財団法人 全日本ろうあ連盟出版局 Power pointによる授業でプリント(ハンドアウト)を用意する。				
履修上の注意					
参 考 書	医療手話の手引き(オール図解)病院ですぐ役に立つ手話 ともに歩むために「覚えよう みんなの手話」財団法人 全日本ろうあ連盟出版局				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	第1講座 つたえあってみよう 挨拶してみよう	【物やしぐさの表現】手話と身振りの違い？ 手話がわからないとき
2	第2講座 自己紹介をしてみよう お隣さんへの挨拶	【名前】漢字の手話や指文字の由来を知る 【家族】視覚的にわかりやすい表し方紹介
3	第3講座 数字や時間の表現を覚えよう	【数字】両手で表すことに慣れよう
4	第4講座 趣味と仕事のことを話そう	【趣味】スポーツは身振りから 【仕事】手話の特徴(形・位置など)
5	第5講座 どこの手話表現を覚えよう	【住所】行きたい場所はどこですか？
6	第6講座 『聴覚障害者の生活と コミュニケーション手段』	
7	第7講座 天候とお金の表現を覚えよう	【会話レッスン】手話会話レッスン
8	第8講座 どの歯が痛いですか？	【会話レッスン】歯に関する手話単語
9	第9講座 話しかけてみましょう	【歯科医院での会話】現場での会話
10	第10講座 まとめ・発表	【試験】読み取りと手話表現

コミュニケーション学 接遇作法

講 師	峰 下 和 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	コミュニケーション力をキーワードに良好な人間関係を構築するため、また、必要な情報、意思の伝達が的確にできるよう基本的な知識と態度、考え方を習得する。				
授 業 概 要	社会人として必要なコミュニケーションの方法を講義とロールプレイで詳しく学ぶ。				
学 習 方 法	①講義 ②グループディスカッション ③ロールプレイ				
成績評価の方法	授業態度20% ロールプレイ60% 小テスト20%				
教 科 書	独自のもの				
履修上の注意	ロールプレイが多い。 体験しながらコミュニケーション力を身につける。				
参 考 書	適宜紹介				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	コミュニケーション総論・第一印象を知る	自らの好印象を表現できる。
2	話し方・会話の基本を身につける①敬語	敬語の基本を理解し使うことができる
3	話し方・会話の基本を身につける②敬語	会話の中で敬語を正しく使うことができる
4	話し方・会話の基本を身につける③会話力	聞き上手のテクニックを理解し身につける
5	話し方・会話の基本を身につける④会話力	相手の気持ちに寄り添った会話のテクニックを身につけ使えるようになる
6	話し方・会話の基本を身につける⑤会話力	先を読む会話を身につけ仕事の効率を上げる
7	話し方・会話の基本を身につける⑥会話力	指示の受け方・報告の仕方・クレームの処理の仕方を身につける
8	会話力を磨く	相手の長所を言葉で伝える・褒めることができる(いいところ探し)
9	電話の応対①	電話応対の基本(かけ方・受け方)を身につけ使えるようになる
10	電話の応対②	使う言葉を選び、相手と心地よい応対ができる

芸術華道

講 師	木 下 美 也	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	—
一般目標 (GIO)	自然や四季を愛でる感性を磨き、心を豊かにし、長い歴史の中で育まれてきた華道を学び、自分たちの暮らす日本文化を理解する。				
授 業 概 要	華道の基本・実習として自由花を中心とした授業を行う。その中で草木花との触れ合いにより、やさしい心、素直な心、思いやりの心を大切にし、心をこめて美しい花が生けられるように指導する。それと共に華道を通して道徳や礼儀作法の勉強ができる努力をしていきたい。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	ノートによる採点80%、作品評価、出席状況20%				
教 科 書	はじめる いけばな 学校華道 日本華道社 池坊 いけばな スケッチノート 日本華道社				
履修上の注意	実習やテキストを参考に復習してほしい。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1 2	いけ花の心得 いけ花の分類、基礎 基本実習	華道を通して道徳、礼儀作法等の勉強ができる。 いけ花の形の自由化を学ぶ。 花ばさみ、剣山、花器の使い方、使った後の手入れを学び、草木を使い実習する。
3	池坊といけ花の歴史、変遷 基本実習	日本で生まれたいけ花と、日本の伝統文化を学ぶ。
4 5 10	基本実習	季節の花、草、木を学び知ることができる。 花の名前がわかる。 自然的表現と意匠的表現の技法を学ぶ。(花材の変形、加工を作る) 家に持ち帰った花の手入れの仕方を学ぶ。 花、草、木の色の取り合わせから作品を作ることができる。 作品をスケッチし、いけ方の参考にすることができる。

芸 術 茶 道

講 師	早 田 由美子	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	—
一般目標（GIO）	日本の生活総合文化である茶道を通じて、自らの人格を練成し、精神性を高めることを修得する。				
授 業 概 要	400年の長い歴史と伝統のある裏千家の茶のこころ「和敬静寂」を伝える初歩的な茶道点前を体験する。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	実技50%、授業態度40%、出席状況10%				
教 科 書	学校茶道教本編集委員会編集 学校茶道 初級編				
履修上の注意	自分で学ぼうとする心こそが上達への第一歩であるということを理解してほしい。				
参 考 書	裏千家 点前教則①・② 淡交社				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SBOs）
1 5 3	割けいこ	茶事の流れを知るビデオを見て興味を持つ。 基本となる扱いを部分的に習い実施する。 茶席の心得を知る。
4 5 10	盆略点前 千歳盆点前	割り稽古を習得し、学校茶道用に創案された点前を始める。 盆略点前を応用した点前。

芸術美術

講 師	内 藤 修 子	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	表現や鑑賞の幅広い活動を通し、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、感性を豊かにして、豊かな情操を養う。				
授 業 概 要	人間にとって最も大切なものはなにか、それを問いかけながら、美術を学び、生きるエネルギーの根源を美術表現という地平から見つめ返してみる。描くことや造形を生き生きと表現する内容にする。				
学 習 方 法	美術講義、野外研修、長崎の伝統や地域文化の美術に親しむ。				
成績評価の方法	作品提出評価、出席評価80%、小テスト20%				
教 科 書	適宜配付する				
履修上の注意	美術を学ぶことは鑑賞や表現を主に導入していく事。個人評価だけが重要ではない。作品との向き合い、材料を手にした時から出来上がるまでの、時間と空間、完成までの喜びの経過であり、心の交流や友との学びを主体として、美術を楽しむことである。身体と心、手で感じて、触れ合うことを理解していく。				
参 考 書	岡本太郎。草間彌生、マルセル・デュシャン、アンディ・ウォーホル・他の現代美術作家画集 安藤忠雄他の資料(光村図書美術Ⅲ) 美と創作シリーズ 立体造形を学ぶ 京都造形芸術大学 アヴァン・ギャング中国現代アート 牧陽一 木魂社 現代美術の断面 京都国際芸術センター 菊畑茂久馬とく物>語るオブジェ 福岡県立美術館編 なぜこれがアートなの? アメリカアレンス 川村美術館				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	「美術史・美術鑑賞」 (印象派から現代美術まで)	日本美術世界の美術を導入して述べ、日本の美術文化が世界にもたらした説明をする。
2	「鑑賞と表現」(作る、制作することへの思い)。コラージュ作品をつくる。	美術鑑賞やコラージュ作品の制作が心を豊かにすることを感じる。
3	「多視点でものをとらえる」鳥瞰図を描く。 自分の部屋を描いてみる。	鳥目線で空中から見ることで、多方面から自身を見る工夫に導く。
4	自分の住む町、建物、路地を見てみよう。 風景を見てみよう。	地域を知る、自身の街に親しむことで地域の方や友と美術を共有する。
5	「心象の世界」(絵画には感情を沈め精神を慰めるものがある) 表現をはじめてみよう。喜びや幻想を描いてみよう。	最も深い美術学習での目標は、社会に受け入れられる人間力を養う。
6	「現代美術との触れ合い」ポップアートから学ぶもの。平面から立体へ、そして空間美術へ。立体作品を制作。	今の時代は最も芸術が必要であることをしり、共に表現活動を促す。
7	「立体造形との触れ合い」生活の中のモダンアート。街の彫刻を学ぶ。	まちに在る建物や彫刻、絵画を知り、美術を学び、美術に触れる。
8	「生活とデザイン」(伝統工芸・ファッション・デザイン)に興味を持つ。	あらゆるものに美は存在することを感じる。豊かな美的社会人に育成し応える。
9	日本の美術家を学ぶ。 (草間彌生・岡本太郎)	他者に伝える表現能力及び他者と共に考える活動力を身につけていく。
10	「人物を描く」自画像を描く。自画像を描く意味を理解して、描いてみる。	自分を描く行為は他者を大切にしている行為に繋がり、自分の心の表現である。

芸術書道

講 師	田 端 八重子	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	手書き文字には、書いた人の人間性が現れる。個性を大事にしつつ美しい文字を書くことを目標とする。				
授 業 概 要	硬筆と筆ペン(小筆)による実用的な細字の習熟を主眼とする。 大筆による自在な表現を体験する。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	5回の提出作品及び出席状況を基にする。 提出作品50%、出席状況50%				
教 科 書	富谷栄三郎 著 「美しい小筆字入門」 大泉書店				
履修上の注意	道具(筆ペン、漢字練習帳、大筆、水書き半紙)を持参する。添削箇所を直す。				
参 考 書					

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1 5 3	美しい楷書の書き方	ひらがな、カタカナ、漢字の基本的な「カタチ」を理解する。 大筆を使用し、筆圧の変化を理解する。
4	短冊に漢字かな混合文を書く	筆ペンの特性を習得し、短冊を美しく仕上げる。
5 5 6	手紙を書く	手紙の形式を理解する。
7 5 8	年賀状を書く	他人の目に触れることを意識し美しく書く。
9	作品を書く	題材を選び、作品として仕上げる。
10	のし袋の表書き	自分の名前を美しく書く。